

Jミルク国際委員会 ニュースレター

Newsletter of J-milk International Committee No.1 2021

- 巻頭言：国際委員会の設立と委員長就任のご挨拶（齋藤委員長）
- 国際組織（IDF、GDP、IFCNなど）の活動報告
～GDP：気候変動への取り組み「酪農乳業ネットゼロへの道筋」を開始予定～
- 国際会議の予定
～IDFグローバルデーリーカンファレンス2021コペンハーゲンのお知らせ～
- Jミルク国際委員会の活動報告など



IDF グローバルデーリーカンファレンスを開催するコペンハーゲンの街並み



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

巻頭言：国際委員会の設立と委員長就任のご挨拶

Jミルク国際委員会委員長・東北大学名誉教授 齋藤 忠夫…………… 1

1. 国際組織の活動報告

I IDF 関連…………… 3

1) IDF チームアップデート（最新活動状況）から

2) IDF 質問状の概要と結果

3) 国際会議の予定

II GDP 関連…………… 33

1) GDP ブリテン、ニュースメール等から

2) 国際会議の予定

III その他国際組織関連（IFCN、DSF 含む）…………… 39

1) 国際会議の報告・予定

2. 国際会議等の日程及び出版物の紹介

I 国際会議等の日程一覧表…………… 41

II 国際組織の出版物…………… 43

3. 国際委員会活動報告と主な国際情報提供

I 国際委員会実施報告…………… 46

1) 国際委員会

2) 国際広報委員会

3) 国際組織活動連絡会議

II 専門分科会活動報告…………… 47

1) コーデックス関連活動

2) 持続可能性関連活動

3) IDF/ISO 分析法関連活動（質問状含む）

III 国際情報提供…………… 49

巻頭言：国際委員会の設立と委員長就任のご挨拶

国際委員会委員長・東北大学名誉教授
齋藤 忠夫

2021年6月18日の第1回国際委員会におきまして、委員長に選任されました東北大学の齋藤忠夫でございます。7月末には東京での新型コロナウイルス感染者数も4000名を超え、東京オリンピック2020終了後の感染拡大も心配されておりますので、皆様にはコロナお見舞いを申し上げます。

まず初めに、本国際委員会の設立の経緯と当面する運営について説明させていただきます。Jミルクには、これまで進めてきました国際関連事業と、同じ組織内の国際酪農連盟日本国内委員会（JIDF）で進めてきましたIDFを中心とする国際事業が共存し、両事業を統一する方がメリットある事業展開が可能となると、この度判断致しました。そして、2021年4月に本国際委員会が新しく創設されることになりました。



世界的な規模で酪農乳業のグローバル化が進む中、わが国の酪農乳業の将来にわたる持続可能な発展に貢献するためには、「国際酪農乳業組織」と「国連機関及び国際組織」との連携をこれまで以上に強化し、国際情報の一元的な収集と解析そして迅速な発信による情報提供をより強く進めることに致しました。本委員会の本格的稼働により、国際情報を効率良く収集でき、かつ迅速にスピード感を持って分析結果や有用情報を酪農乳業関係者の各位にお届けすることが可能となります。

Jミルクが関係する「国際酪農乳業組織」としましては、国際酪農連盟（IDF）を筆頭に、グローバル・デーリー・プラットフォーム（GDP）、国際酪農比較ネットワーク（IFCN）、デーリー・サステナビリティ・フレームワーク（DSF）などと主要国酪農組織が含まれます。また、Jミルクが関係する「国連機関及び国際組織」としては、国連食糧農業機関（FAO）、国際標準化機構（ISO）、国際獣疫事務局（OIE）、FAO/WHO コーデックス委員会（CODEX）などが含まれます（図1）。今後は、これら諸機関の国際ネットワークからの国際情報の収集・分析・提供までが、本委員会の活動でより短時間で強化充実される様になります。

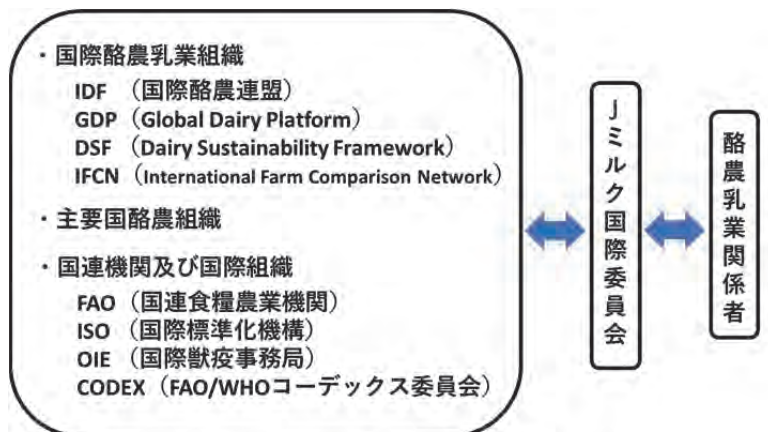


図1 酪農乳業の国際ネットワーク

以上の事業展開を実現するために、これまでの JIDF 専門部会を発展させた「6つの専門分科会（経済市場、酪農生産、栄養健康、乳業技術、分析技術・衛生、国際規格）」および「2つの専門小分科会（微生物・衛生専門小分科会、コーデックス栄養・特殊用途食品小分科会）」を整備し、さらに各専門分科会・小分科会の代表に全体的な広報検討を行って貰う「国際広報分科会」を新設致しました（**図2**）。これまでも、JIDF の各専門部会では専門性の高い委員の審議により、活発な活動と情報発信をして参りましたが、縦割りで独立性の高い委員会組織になっておりました。新設の国際委員会では、各専門分科会・小分科会での「縦糸」に当たります審議解析結果を、その他の専門分科会・小分科会の委員にも速やかに情報共有を行い、各専門分科会・小分科会からの代表による国際広報分科会を通して、各会を緊密に連携させる「横糸」を紡ぐような委員会の全体運営を目指して参りたいと考えています。

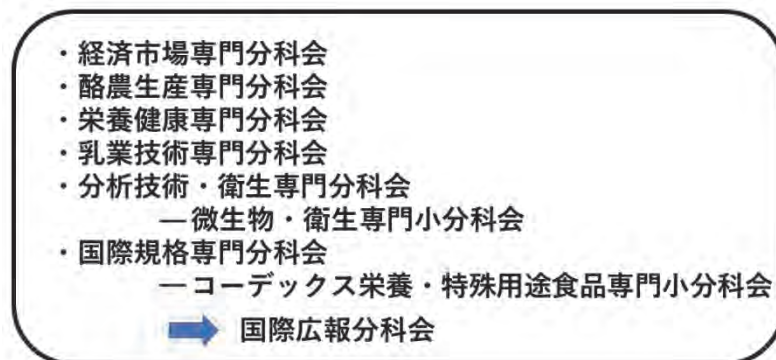


図2 国際委員会の構成専門分科会・小分科会の新体制

国際情勢はかなりの速度で変化していますので、本委員会も常に海外の酪農関連事業情報を収集し、各専門分科会・小分科会での解析を通して、速やかに国際委員会としての見解や提言や意見などを、従前にも増したスピード感を持って発出する活動が強く求められているかと思えます。是非ともその期待に応えられる国際委員会を、皆様と一緒に構築して参りたいと思えます。本委員会には、2名の副委員長、事務局長、そして5名の特別委員が新しく選任され、委員長以下総力を挙げて委員会活動に邁進する所存でございます。

本委員会で活動される総勢100名にも及びます全分科会・小分科会委員におかれましては、日々の本務の仕事でお忙しい中でのお願いで恐縮でございますが、日本の酪農のさらなる発展のために、是非ともお力をお貸し頂きたく心よりお願い申し上げます。今後とも、どうぞ本委員会をよろしくご指導のほど、お願い申し上げます。

1. 国際組織の活動報告

I IDF 関連

1) IDF チームアップデート (最新活動状況) から

IDF チームアップデートは、IDF がコミュニケーション化のために国内委員会宛に定期的にメール送付しています。ここでは、その 2021 年 3 月号、5 月号、および 7 月号をご紹介します。なお、IDF イン트라ネット (<https://intranet.fil-idf.org/>) へのアクセスには制限があることをご了解下さい。

① IDF チームアップデート - 2021 年 3 月

国内事務官各位

第 1 四半期がもうすぐ終わるため、今年すでに実施している活動を評価するとともに、重要なイベントを見通しておくことが大切です。国連フードシステムサミットの IDF 準備作業が進行中です。世界の酪農乳業セクターはサミットの準備段階を通じて健康的で持続可能な食事への酪農乳業の貢献に関する情報を共有しており、今後もそうしていきます。さらに、IDF 国内委員会やその他の組織の多くは、乳製品や植物性食品を含む食事の価値が認識されることを確保するために、国や地域レベルで取り組んできました。

その他の関連作業では、IDF は GDP および FAO と協力して、「ネットゼロ、低炭素酪農への道筋」イニシアチブに参加しています。IDF がプロジェクトに最も貢献できる方法について、GDP および FAO と話し合っています。このイニシアチブの進化とそれを支援する方法についてお知らせする予定です。また、IDF 環境常設委員会 SCENV に参加することで、イニシアチブの推進に貢献することができます。例えば、このイニシアチブにも貢献する GHG 計算のための IDF 方法論の改訂に取り組んでいるアクションチームがあります。

私たちのデジタルトランスフォーメーションプロジェクトは完成に近づいており、IDF ウェブサイト (学乳情報ハブを構成) のエキサイティングな新しい開発が間もなくリリースされます。私たちの目的は、IDF の最先端の専門性と情報を反映したデジタル体験を提供することであり、月末までに IDF の成長におけるこの新しい段階の詳細を共有する予定です。乞うご期待！

最新のニュース！IDF 理事会は、IDF デンマークが IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021 を主催することをお知らせします。IDF の年末ビジネスミーティングは 10 月 9～12 日まで開催され、IDF グローバルデーリーカンファレンスは 10 月 13～15 日まで開催されます。オンラインで参加できる見込みです。詳細は近日公開予定です。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

キャロライン・エモンド、IDF 事務総長

ガバナンス最新情報

IDF プログラムオプワーク

IDF の主張

ニュースとコミュニケーション

出版物

イベントと会議

ガバナンス最新情報

IDF 理事会および科学・計画調整委員会 SPCC の変更

2月1日、IDF 理事会がディリップ・ラス Dilip Rath 博士の辞任を受け付けました。新定款の第 25.9 条に基づき、IDF 理事会は、2月3日に AMUL 専務取締役である R. S. ソディ R. S. Sodhi 博士を選出して、空席を埋めるため任命しました。ソディ博士は、有名な酪農乳業の専門家であり、IDF コミュニティに積極的に参加しています。彼はまた、IDF WDS2022 組織委員会のメンバーでもあります。2021年6月1日に予定されている次回総会のために、理事（総会代表）の新しい2年間の任期の選挙に関する回付状が送付されました。会則に認められているように、ソディ博士はその選挙の候補者になることができます。締め切りは5月4日です。

3月3日、SPCC 環境担当メンバーのイン・ワン Ying Wang 博士が職位を辞任しました。2021年6月1日に予定されている次回総会のために、SPCC（環境担当）のための新しい2年間の任期の選挙に関する回付状が作成されました。細則で認められているように、SPCC は暫定的に空席を埋めるためピエール・バルカンド Pierre Barrucand 氏を任命しました。各国国内委員会は、2021年6月1日に予定されている次回の総会で新しい2年の任期の候補者を指名するよう求められています。締め切りは5月4日です。

IDF 理事会の戦略的・組織的レビュー

IDF 理事会は、戦略的・組織的レビューの作業を行っているところです。IDF 理事会、SPCC、およびスタッフのメンバーで構成される小委員会は、IDF 理事会にレビューへの実質的な意見を提供しています。

理事会は次の8つの分野で作業しています：

1. 目的、理念、使命、価値、仕事の範囲、役割、
2. ガバナンス
3. メンバーシップ
4. 構造：私たちは任務を遂行するために構造化されているか
5. パートナーシップ
6. 資金調達
7. 戦略目標
8. 私たちが住んでいる世界／5～10年先のセクターの環境スキャン。

国内委員会の情報会議は、3月25日の12:00～14:00 CET に開催予定です。国内委員会事務局長がこの情報会議に出席するか、録画をご覧になることを強くお勧めします。

IDF 本部

マリア Maria 氏とローレンス Laurence 氏は二人とも健康な赤ちゃんと元気にやっています。

ナディーン・カムンガ Nadine Kamunga 氏は2月28日以降 IDF では働いていないことをお知らせします。彼女の本組織への貢献に感謝し、さらなるご活躍に期待しています。コミュニケーションに関連する質問については、communication@fil-idf.org を引き続き使用でき、出版物については、

orders@fil-idf.org を使用できます。

3月1日、私たちは IDF 栄養・健康常設委員会 SCNH のフランスの専門家であるコンスタンセ・ボイヤー-Constance Boyer 氏の IDF チームへの到着を歓迎し、ローレンス氏の休暇中の役割のいくつかを支援してもらうことになりました。彼女は、プロジェクト管理と調整について週に数時間の作業をしています。コンスタンセ氏には、cboyer@fil-idf.org で連絡できます。

IDF プログラムオブワーク

新規活動項目 2021

国内委員会の投票（締め切り 3月10日）により、以下の 11 の提案が受理されました。IDF 本部は回答をまとめ、データベースを更新中です。まとめは、まもなく送信されます。アクションチームはその通知に応じて活動が開始できます。

酪農微生物分析法常設委員会 SCAMDM	新規活動項目 NWI 21/01 : ISO 26323 の改訂 IDF 213 乳製品 - 連続 pH 測定 (CpH) による乳製品カルチャーの酸性化活性の測定
家畜の健康・福祉常設委員会 SCAHW	新規活動項目 NWI 21/02 : 乳牛の暑熱ストレス
食品添加物・汚染物質分析法常設委員会 SCAMAC	新規活動項目 NWI 21/03 : 乳および乳製品中のアフラトキシン M1 検出のための定量的スクリーニング方法の検証のためのガイドライン
成分分析法常設委員会 SCAMC	新規活動項目 NWI 21/04 : 乳製品中の脂肪 - 核磁気共鳴 (NMR) の応用に関する手引き
酪農微生物分析法常設委員会 SCAMDM	新規活動項目 NWI 21/05 : ISO27025 の改訂版での IDF 意見 IDF149 - 水平標準への乳酸菌の同一性基準
加工助剤・指標分析法常設委員会 SCAMPAI	新規活動項目 21/06 : 他の乳製品粉末の不純物を特定するための ISO5739 IDF107 の拡張
乳業科学・技術常設委員会 SCDST	新規活動項目 NWI 21/07 : 乳業における分子方法論の利用
環境常設委員会 SCENV	新規活動項目 NWI 21/08 : 生態系サービスと酪農乳業セクター
食品添加物常設委員会 SCFA	新規活動項目 NWI 21/09 : 食品添加物のカクテル効果の可能性に関する IDF 意見 - 食品添加物を含有する乳製品の安全性への影響
微生物学的衛生常設委員会 SCMH	新規活動項目 NWI 21/10 : 乳製品に使用される微生物食品カルチャーの健康上の利点
栄養・健康常設委員会 SCNH および環境常設委員会 SCENV	新規活動項目 NWI 21/11 : 持続可能なフードシステムにおける健康的な食事の指標

乳業科学・技術常設委員会 SCDST は、IDF および SCDST の活動における「キャリア初期の」科学者および技術者の関与の強化に関する NWI を提案しました。

SPCC は、乳業科学・技術常設委員会からの新規活動項目で提案されているように、IDF のすべての作業分野にキャリア初期の科学者が関与することを奨励するための後継者育成計画の重要性を認めました。SPCC はまた、さまざまな専門性からの専門家の適切な関与を確保するための取り組み、および IDF 活動における多様な地理的な代表参加が、IDF の組織的レビューおよび戦略的方向性に関する議論において理事会によって議論される予定であることに言及しました。

IDF 細則によれば、賞の創設は理事会の責任です。

したがって、SPCC はすべての IDF 活動グループにおいて、戦略、特により多くの専門家を巻き込み、後継者計画を確実に実施する方法に関する議論の一部として、理事会がそれを検討することを推奨しました。

2月24日、理事会は、酪農科学に関心を持ち、IDFの活動プログラムに貢献することを目的とした若手科学者のための賞を創設するという提案を承認しました。この賞は、2022年のIDFワールドデーリーサミットのために設定されます。その受賞者は、WDSポスターセッションへの参加費用の援助が受けられる見込みです。若手科学者賞の役割と様式を明確にするプロジェクト文書で詳しく説明される予定です。基準と審査員はSPCCの責任であり、SCDSTアクションチームは詳細な計画を管理し、スポンサーを探すことが期待されています。

これらの理由により、このSCDST提案は新規活動項目の提案に対応しておらず、IDF国内委員会による投票には提出されていません。

分析関連の常任委員会

6つの分析関連の委員会が4月20日～23日の期間に開催される予定です(スケジュールとリンクを[ここで参照](#)のうえ登録して下さい)。議案と文書を作成中です。

家畜の健康・福祉常設委員会 (SCAHW)

家畜ベースの福祉指標の潜在的な調和化に関して、多数の参加を得て合同ICAR/IDFワークショップが2月24日に開催されました(ICAR/IDF/OEI/ISO)。議題とスライドは以下から入手可能です：[スライドと議題](#)

次回のウェビナー／バーチャルフォーラムが計画されています：

- 子牛の管理に関する第3回ウェビナーのアクションチームが3月25日に開催されます。ニュージーランド、チリ、日本の事例を含む3大陸の管理慣行が共有されます。
- 5月26日のバーチャル第8回IDFパラ結核症フォーラム。Journal of Dairy Researchの特集号も同時に出版される予定です。

乳業科学・技術常設委員会 (SCDST)

《ミルクツリー》を含むファクトシートが完成しました。これはIDFウェブサイトで公開される新しいファクトシートの一部になります。環境にやさしい乳業技術アクションチームは、省エネに関する文書を完成させているところであり、来月出版予定です。

農場管理常設委員会 (SCFM)

第3回IDF酪農家のための円卓会議ウェビナーが2月18日に開催されました。195人の人々がこのイベントに参加登録し、ドイツ、オーストラリア、イスラエル、米国の農家がCOVID-19後の酪農乳業セクターの課題と見通しを共有しました。新たな円卓会議のウェビナーは4月22日に予定されています。議題と招待状はまもなく送信されます。

環境常設委員会 (SCENV)

アクションチームは、「酪農乳業セクターの一般的なカーボンフットプリントアプローチ」(酪農乳業のLCA方法論)の改訂について活動中です。現在、さまざまな分野や国々の専門家が、アクショ

ンチームの共同リーダーであるアナ・フライスジョーAnna Flysjö氏とナンネ・デッカーSanne Dekker氏のリーダーシップの下、プロジェクトマネージャーとしてブライアン・リンゼイ Brian Lindsay氏によって支援され¹ています。本チームは、さまざまな組織によってこのテーマで開発された農業に関連する多くのイニシアチブに特別な注意を払う予定です。環境サービスに関する新規活動項目が国内委員会の承認のために提出されました（承認済み）。承認された後、この活動は酪農乳業セクターがその利益のために使用できる重要メッセージを定義することに焦点を合わせます。IDFは、GDPとFAOとともに、ネットゼロ・低炭素酪農への道筋（NZP）イニシアチブとその推進に寄与しています。

栄養・健康常設委員会（SCNH）

IDF 栄養シンポジウムの組織化は順調に進んでいます。このイベントは2021年5月11～12日に予定されています。招待状はまもなく回付されます。

酪農政策・経済常設委員会（SCDPE）

年央会議は5月6日に予定されています。カントリー・アップデートの調査が行われる予定です。世界の酪農状況報告書2021チームが最初の会議を開きました。データ収集は今後数か月のうちに開始されます。

IDFの主張

CFS

食料安全保障委員会は、2月11日のバーチャルセッションで、食料システムおよび/または栄養に関する自主的ガイドラインを承認しました。IDFとGDPは、この成果への貢献を説明する [内部メモ](#) を公開しました。

ニュースとコミュニケーション

IDF ニュース：

IDFとICARのウェビナーは、家畜福祉に関するインタラクティブなバーチャルイベントを主催します

2021年2月24日、IDFは家畜の能力検定に関する国際委員会（ICAR）と協力して、家畜福祉評価のフレームワークを検討するバーチャルイベントを主催しました。 [もっと読む](#)

TBC（総菌数）変換関係の計算の堅牢性と使いやすさの向上

細菌数の変換に関するISO/IDFガイドのこの更新の目的は、統計モデルを改善すると同時に、ユーザー間の統計知識のレベルが大幅に異なるため、使いやすさを向上させることでした。 [もっと読む](#)

¹プロジェクトマネージャーとしてのブライアン氏の貢献を確保していただいたGDPに感謝します。

乳中の体細胞数計測の一貫性の向上 - 欧州委員会共同研究センター認定標準品の適用に関する手引きがリリースされました

乳中の体細胞数 (SCC) は、いくつかの哺乳類種の乳房の健康状態を監視するために広く使用されている指標であり、食品衛生規制、乳価支払い試験、農場管理、および繁殖プログラムに関連しています。 [もっと読む](#)

今後の国際デーのリスト (2021年3~4月)

- 2021年3月22日：世界水の日
- 2021年4月7日：世界保健デー
- 2021年4月20日：世界動物ワクチン接種の日

女性の重要な役割を認識する

過去2か月で、世界は2月11日の科学における女性と女兒の国際デーと3月8日の国際女性デーの両方を祝いました。IDFは、専門的なコミュニケーションキャンペーンを通じて、女性たちが酪農乳業セクターにもたらす卓越した貢献を認識しました。その認識の一環として、IDFはグローバルな専門家の数人と酪農乳業セクターにおける彼女らの役割のスライドショープロファイルを作成しました。そうすることにより、IDFは次世代の若い女兒が乳業科学の未来を選択するように刺激することを望みました。IDFはまた、女性の酪農乳業専門家を祝うニュース記事と、若い女性に乳業科学のキャリア選択を奨励するブログ投稿を共有しました。 [もっと読む](#)

その他の酪農乳業ニュース：

- [人間、家畜、植物のセクター全体にわたる抗菌剤の使用に関する国際文書](#)：このFAO/WHO/OIE編集物は、抗菌剤の使用に関連する基準を提供する国際文書の概要と分析を提供します。この編集物の目的は、既存の文書と基準を特定して、それらの実施を手引きし、抗菌剤の使用に関連する将来の国際的な文書の議論と方向性を知らせることです。
- [フードシステムサミットにいくつかの興味深い問題を提起する、新型コロナをきっかけに、より持続可能なグローバルフードシステムを創造する方法に関する世界経済フォーラムの最近の記事に興味をお持ちのことでしょう。](#)

出版物

ファクトシート：

[IDFファクトシート17/2021 チーズと品種・パートI：チーズとは何か？](#)

チーズにはさまざまな形態のおいしい種類があります。私たちの新しいIDFファクトシートは、チーズの歴史だけでなく、チーズ製造プロセスにももぐり込んでいます。

[IDFファクトシート18/2021 チーズと品種・パートII：チーズのスタイル](#)

チーズにはさまざまな形態のおいしい種類があります。私たちの新しいIDFファクトシートは、チーズの歴史だけでなく、チーズ製造プロセスにももぐり込んでいます。

IDF出版物：

[IDFブリテン508/2021：乳中の体細胞数測定のための欧州委員会共同研究センター認定標準品の応](#)

用に関する手引き

このブリテンは、顕微鏡での参照法とルーチン法の両方の方法のパフォーマンス検証、ルーチン法のキャリブレーション設定の検証と必要な調整、二次標準物質への参照値の割り当て、および技能試験での使用にこの標準品を適用する方法に関連する手引きを提供します。

ISO 21187 | IDF 196 : 2021 - 乳 - 微生物学的品質の定量的決定方法 - 代替法の結果と表標準法の結果との間の変換関係を確立および検証するための手引き

この文書は、代替法と標準法の結果との間の変換関係を確立するためのガイドライン、および乳の微生物学的品質の定量的決定のための検証を提供します。変換関係は、a) 代替法から標準法ベースに結果を変換するため、または b) 標準法ベースで表される結果/制限を代替方法の単位での結果に変換するために使用できます。

ISO 22184 | IDF 244 : 2021 - 乳および乳製品 - 糖含有量の測定 - パルスアンペロメトリック検出法 (HPAEC-PAD) を使用した陰イオン交換高速クロマトグラフィー

この文書は、内部標準としてアラビノースを適用して、さまざまなミルクおよび乳製品中の特定の糖（ガラクトース、グルコース、フルクトース、スクロース、ラクトース、およびマルトース）の定量的液体クロマトグラフィー測定を明示します。

イベントと会議

IDF 技術ウェビナーシリーズ

これまでに IDF 技術ウェビナーシリーズにご参加いただいたすべての方々に感謝します。これは大成功であり、私たちすべてが直面している困難な状況において、世界中の専門家らが酪農乳業科学の情報を交換・共有するためのプラットフォームを提供することに役立っています。

今後のウェビナーとバーチャルイベントの詳細：

2021 年 3 月 25 日：出生から離乳までの子牛の管理

この IDF ウェビナーでは、さまざまな子牛管理システム全体で家畜の健康と福祉の成果を扱った既存の科学的かつ最良の管理手法を紹介します。

2021 年 5 月 26 日：第 8 回 IDF オンラインパラ結核症フォーラム

パラ結核症に関する次回の物理的な国際的な学術的セミナーは、2021 年 6 月 12～16 日にダブリンで開催されます。隔年で開催されるパラ結核症フォーラムが、その会議の直前に開催され、アニマルヘルス・アイルランドと IDF が共同で開催します。

2021 年 6 月 7～11 日：IDF チーズの科学技術シンポジウム

6 月に初めてオンラインで開催される IDF 国際チーズの科学技術シンポジウムで、国際的なチーズの専門家らに参加しましょう。最新の研究の結果とイノベーションを共有します。[関連サイトはこちら。](#)

IDF 技術ウェビナーとオンラインイベントをもう一度見る

IDF 技術ウェビナーは、IDF イン트라ネットからダウンロードできます。 [こちらをご確認ください。](#)

② IDF チームアップデート - 2021 年 5 月

国内事務官各位

IDF チームアップデート 2021 年の第 3 号へようこそ。

過去 2 か月は、IDF にとってエキサイティングでダイナミックな時期でした。4 月に、私たちは世界中の利用者に向けた新しいウェブサイトを誇らしく思いつつ立ち上げました。この新しいウェブサイトの目的は、ウェブサイトの利用者をすばやく引き付け、IDF の専門知識、重要メッセージを明確に提示し、酪農乳業に関連する科学的知識に関する情報の明確なパスを提供する、より直感的でユーザーフレンドリーなサイトを提供することでした。

その他のニュースとして、最近、5 月 11 日～12 日に開催された栄養シンポジウムには 1000 人以上の登録者が集まり、25 人以上の講演者が科学と栄養の分野で洞察に満ちた情報と優れたプレゼンテーションを提供しました。これは IDF がこれまでに開催した最大のバーチャルシンポジウムであり、今後の IDF イベントでもこれらの成功を継続して前進させたいと我々は考えています。

毎年、自国で IDF デーを開催し、IDF プログラムオブワークへの貢献と成果を共有する人々もいます。3 月 11 日にノルウェーで、4 月 9 日に中国で、そして最近では 4 月 23 日にブラジルで祝賀を行ってくれた会員に感謝します。ケニアは 5 月 31 日に最初の IDF デーを開催します。皆さんの国で組織している IDF 活動について聞いてみたいものです。

2021 年 10 月 13 日～15 日にコペンハーゲンで開催される IDF グローバルデーリーカンファレンスとバーチャルアクセスのウェブサイトが公開されたことをうれしく思います。この世界的な酪農乳業イベントの今後のエキサイティングな詳細については <https://idfglobaldairy.org/> で確認してください。

最後に、「世界牛乳の日」が近づいていることをリマインドいたします！今年のテーマは持続可能性に焦点を当て、二酸化炭素排出量の削減に対する酪農乳業セクターの取り組みを示すことです。以前に共有したように、IDF は低炭素の未来を創造するのに役立つ革新的な酪農場営農ソリューションの 1 分間のビデオを紹介する予定です。寄稿いただける方は communications@fil-idf.org にご連絡ください。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

キャロライン・エモンド、IDF 事務総長

ガバナンス最新情報

IDF プログラムオブワーク

IDF の主張

ニュースとコミュニケーション

出版物

イベントと会議

ガバナンス最新情報

IDF 理事会の戦略的・組織的レビュー

IDF 戦略 2022-2025 は草案を作成中であり、6 月下旬または 7 月上旬にレビューのために国内委員会に送付されます。IDF 戦略 2022-2025 は、10 月 12 日の総会で発表されます。

戦略活動計画 2022-2025 の草案は、5 月 6 日に 4 週間の協議期間のため国内委員会および委員長・代理に回覧されました。改訂された文書は、6 月にレビューするためにすべての専門家と共有される予定です。この文書は 10 月 12 日の総会で発表されます。

IDF 本部

スタッフの最新情報：マリア・サンチェス・マイナー博士が産休から戻ってきました。環境常設委員会 SCENV の副委員長であるジーン・マルク・デロルト氏には、マリア・サンチェス・マイナー博士に代わり過去数か月間のすべての活動と貢献をしていただきました。

IDF プログラムオブワーク

改訂されたプログラムオブワーク文書は 5 月 12 日に回付され、[イントラネットで入手できます](#)。

FAO-IDF2021 コラボレーションミーティング

IDF と FAO は 4 月 23 日に会合し、2021 年の優先事項を検討し、協力分野について合意しました。会議は非常に前向きで実り多いものでした。食品安全および栄養部門とのフォローアップ会議が予定されています。

FAO は最近、FAO と民間セクターの関与のための「ワンストップショップ」として設計された「コネクトポータル」の作成を発表しました。民間セクターはこのポータルを使用して、主要な機会に関与し、閲覧し、発見することができます。「コネクトポータル」に関する詳細は以下をご覧ください | [国連食糧農業機関 \(FAO.org\)](http://国連食糧農業機関 (FAO.org))

世界農業者機構 (WFO) との協力

IDF 理事会は、IDF と WFO が活動計画を含む覚書に署名したことをお知らせします。両当事者は、以下の 3 つの分野で協力することに同意します：

1) 情報交換、2) 主張：次のプロセス内で 2 つの組織が主催する選択された公式サイドイベントへの貢献：FAO、COP 気候、CFS、酪農乳業関連の問題に関する国連 FSS および／またはより広いトピック（例えば、気候変動）、3) コミュニケーション。

分析関連の常設委員会 - IDF/ISO バーチャル会議の結果 - 2021 年 4 月

開催されたバーチャル会議：分析規格ステアリンググループ MSSG の 2 回の会議（4 月 19 日と 5 月 3 日）、常設委員会の 6 回の会議。これらの会議への参加者数は、物理的な会議と同じかそれ以上で、多数のオブザーバーも参加しました。

結果の要約:

大部分の詳細は、プログラムオブワークの最新の更新（5月12日に送付）に含まれており、各会議の議事録（現在準備中）で入手可能になる予定です。

分析分野における2021年の1つのIDF優先プロジェクト:コーデックス規格234における乳製品分析法のコーデックス分析・サンプリング法部会 CCMAS レビュー

検討中の新規活動

- 成分分析法常設委員会 SCAMC : C27/他の乳製品への滴定酸度測定法の適用拡張
- 酪農微生物分析法常設委員会 SCAMDM : ISO 10932 | IDF223 の改訂
- 微生物分析法ハーモニゼーション常設委員会 SCHMM: 水平的適用の拡張するための SCHMM、SC、および SC9 への調査-ISO 14461 | IDF 169 : 2005 シリーズ「微生物検査室での品質管理」

2022年の最大5つのIDF新規活動項目:

- 食品添加物・汚染物質分析法常設委員会 SCAMAC : 乳児用調製乳および乳製品中の塩素酸塩の測定 (AOAC を使用)
- 成分分析法常設委員会 SCAMC: デーリーバーミエイト粉の追加のバリデーションデータの結果を含む ISO 5537 | IDF26 水分の改訂
- 成分分析法常設委員会 SCAMC : 乳児用調製乳中のフッ化物の測定 (AOAC を使用)
- 成分分析法常設委員会 SCAMC : 乳児用調製乳および乳製品中の A2 ベータカゼインの測定 (AOAC を使用)
- 成分分析法常設委員会 SCAMC : 乳児用調製乳および乳製品中のリン脂質の測定 (AOAC を使用)
- 微生物分析法ハーモニゼーション常設委員会 SCHMM : H26 : チーズ中のクロストリジウム属-IDF/ISO 規格から IDF ブリテンへの出版に変更
- 統計・自動化常設委員会 SCSA IDF 148-2

分析規格ステアリンググループ MSSG によって確認された微修正 (新規活動項目 NWI なし)

- ISO 16958 / IDF 231 (キャピラリーガスクロマトグラフィーによる脂肪酸組成の分析法)
- ISO 20647 / IDF 234 (ICP-MS による総ヨウ素の分析法)
- ISO 20649 / IDF 235 (ICP-MS を使用したクロム、セレン、およびモリブデンの分析法)
- ISO 22682 IDF198 乳糖の測定に関する IDF/ISO 規格の改訂、デーリーバーミエイト粉の試験部分の改訂、およびコーデックスによる採用 (2020 年 SCAMC 会議は、修正を準備することに合意しました。P・トロサート P Trossat/H・ファンデン・ビガート H van den Bijgaart)
- ISO 9232 / IDF 146 - ヨーグルト - 特徴的な微生物 (*Lactobacillus delbrueckii* subsp. *bulgaricus* および *Streptococcus thermophilus*) 同定のための培地の性能試験を含めるための修正案の開発
- アルカリホスファターゼ (有益な付録のパート1および2の機器の更新)

ISO 新規活動項目の提案 (NWIP) または予備活動 (PWI) に移行する活動

- 成分分析法常設委員会 SCAMC : NMR による脂肪の測定法
- 食品添加物・汚染物質分析法常設委員会 SCAMAC : 動物用医薬品の測定法

DIS 投票/IDF 質問状はまもなく送信されます

- A10：ガイドライン
- C51 アミノ酸
- S17：官能分析

今後数週間に予定されている出版物

- A12 - アフラトキシン - 出版
- A05 - メラミンに関する IDF/ISO 規格
- S15 - 体細胞数測定方法に関する目録、評価および展望
- S13 - 生乳の微生物学的品質測定のための換算式の適用に関する手引き

欠員通知：食品添加物・汚染物質分析法常設委員会の副議長は空席であり、候補者を受け付けています。

微生物・衛生常設委員会 (SCMH)

SCMH は 5 月 11 日に会合を行いました。次回のコーデックス食品衛生部会の準備に関して、STEC および水の利用・再利用に関する最新の草案が回覧されました。IDF コメントはまもなく発行される予定です。

乳製品に使用される微生物食品カルチャーの健康上の利点

この新規活動項目 NWI は受理されました。この活動は、食文化と腸の健康の定義と新しい概念について報告する予定です。International Scientific Association for Probiotics and Prebiotics (ISAPP)、International Probiotics Association (IPA)、IPA ヨーロッパ、FAO、そしておそらく WHO との協力が求められています。FAO が関与することが確認されています (FAO 食品安全部門)。アクションチーム AT は現在、定義が必要な用語を収集しています。6 月下旬に FAO が出席する別の会議が開催されます。9 月にローマで開催される第 11 回プロバイオティクス、プレバイオティクス、ニューフード会議で非公開の会合が開催され、AT が報告します。

食品に使用履歴のある微生物リスト - F・ボーディション (フランス)

現在、使用履歴のある食品の更新が行われています。種に関する新しい提案が中国、デンマーク、フランス、アイルランドから提出され、これらは 6 月に国内委員会 NC に提出され、年内に出版される予定です。ドラフト議事録が入手可能です。

残留物質・化学汚染物質常設委員会

会議は 6 月 2 日 17:00~19:00 CEST 時間に予定されています。議題は準備中です。

食品添加物常設委員会 (SCFA)

会議は 6 月 2 日 17:00~19:00 CEST 時間に予定されています。議題草案と準備文書は [ここ](#)にあります。

家畜の健康・福祉常設委員会 (SCAHW)

会議は 6 月 15 日の 20:00~22:00 CEST 時間に予定されています。議題草案と準備文書は [ここ](#)にあります。

乳業科学・技術常設委員会 (SCDST)

会議は 6 月 8 日 11:00~13:00 CEST 時間に予定されています。議題草案と準備文書は [ここ](#)にあります。

農場管理常設委員会 (SCFM)

3 回目の IDF 酪農家のための円卓会議 ウェビナーが 4 月 22 日に開催されました。

会議は 6 月 8 日 11:00~13:00 CEST 時間に予定されています。議題草案と準備文書は[ここ](#)にあります。

環境常設委員会 (SCENV)

次回の IDF 環境常設委員会は、6 月 4 日 13:00~15:00CEST に予定されています。なお、SCENV の委員長の候補者を募集しており、委員長の指名募集を回付しています。

酪農政策・経済常設委員会 (SCDPE)

年央会議は 5 月 6 日に開催されました。17 の参加国を含むカンントリーアップデート調査が発表されました。世界の酪農状況報告書 2021 チームが最初の会議を開き、5 月上旬からデータ収集が開始されました。

IDF の主張

コーデックス薬剤耐性特別部会

ステップ 6 での[食品媒介性薬剤耐性を最小化および封じ込めるためのコーデックス行動規範およびステップ 3 での食品媒介性薬剤耐性の統合モニタリングおよび監視に関するコーデックスドラフトガイドライン](#)に関する国際酪農連盟のコメントが 5 月 25 日に電子作業部会に提出されました。

コーデックス分析・サンプリング法部会

IDF は、5 月 11 日~25 日のコーデックス分析・サンプリング法部会の会議、5 月 11 日、12 日の承認に関する作業グループの 2 つのセッションに各 3 時間、そして 5 月 17 日~21 日の全体会議の 5 セッションに各 3 時間参加しました。報告書の採択は 5 月 25 日に行われました。100 カ国以上を代表する 300 人以上の代表者が参加しました。IDF は、5 月 10 日の政府機関間の会議にも参加しました。これは、コーデックス分析・サンプリング法部会 CCMAS (ISO、コーデックス、AOAC、USP など) をサポートするアプローチを統合化させることを目的とした標準開発組織の非公式グループです。IDF の代表団は、オーレリー・デュボア (IDF)、スティーブ・ホルロイド (ニュージーランド)、ネイト・バナナ (米国)、フィリップ・トロサット (フランス)、ヤオ・スー (中国)、ハリー・ファンデン・ビガート (オランダ) で構成されました。

この 2021 年のセッションからの酪農乳業セクターの主な成果は以下のとおりです：

- 乳児用調製乳のための方法。CCMAS は AOAC2011.14 / ISO15151 | IDF 229 をカルシウム、銅、鉄、マグネシウム、マンガン、リン、カリウム、ナトリウム、および亜鉛のタイプ III 方法として確認し、2019 年に承認された方法を補完しました。これは、栄養・特殊用途食品部会 (CCNFSDU) が性能基準アプローチを採用せず、紛争解決のための特定の方法をリストすることを確認したためです。
- CCMAS は、CXS 72 にこれらの栄養素が規定されていないため、フルクタン (AOAC 2016.14 / ISO 22579 | IDF 241)、ベータカロチン、およびリコピンの方法を承認せず、意図を明確にするために CCNFSDU に照会しました。
- 栄養素を添加した幼児向け飲料・製品 / 幼児向け飲料の甘味を測定する方法。CCMAS は、提案された規定を検証する方法がないことを確認しました。これにより、甘味に関する規定の問題が CCNFSDU に差し戻されます。

- 乳製品パッケージ。ほとんどの提案が採択されました。議論のポイントは以下のとおりです：
 - 粉乳およびその他の乾燥乳製品の水分測定：いくつかの国が ISO5537 | IDF 26 (2004) の適用性に懸念を表明しました。IDF は、以前のバージョン (IDF 26:1993、AOAC 927.05 と同等) には、再現性の低さなど、いくつかの欠点があったと説明しました。そのため、IDF と ISO は、周囲の条件が測定結果に影響を与えるのを防ぐために、約 20 年前に方法の初期バージョンを改善しました (強制空気循環と制御された空気湿度を備えた乾燥オーブンを使用)。CCMAS は合意に達しておらず、ウルグアイ、ブラジル、チリに、合意された手順を介して AOAC 分析法 927.05 に関する情報を提供するように依頼しました。性能基準は重要であり、唯一の基準ではない場合があります。コストと適用性についてさらに議論される予定です。IDF 加盟国では、次の CCMAS セッションのためにこれらの側面に関する確かな情報を得るために、この方法の使用について調査が行われる予定です。
 - 性能基準アプローチ：CCMAS は、ISO およびニュージーランドの支持を受けて IDF が表明した懸念と、いくつかの規定について特定された方法がないにもかかわらず、数種類の乳製品中の鉄、銅、および鉛の測定に性能基準アプローチを使用することに同意しました。適用可能な方法については、次の CCMAS セッションで議論される予定です。委員長は、基準を満たす方法が特定されない場合は、それらを検討できることを明確にしました。

これにより、次のコーデックス総会での採択を条件として、CCMAS による乳製品法のレビューが終了しました。さらなる変更と議論は、今後も承認に関する作業部会によって対処される可能性があります。

詳細については、CCMAS 報告書および IDF オブザーバーレポートでまもなく入手いただけます。

コーデックス食品添加物部会 (CCFA)

CCFA の次のセッションは 9 月に開催されますが、ワーキンググループは 6 月 21 日～25 日に開催されます。いくつかのトピックについてのコメント期限は 6 月 10 日で、コメント草案は準備中です。6 月 2 日の SCFA 会議で議論される予定です。

- 第 2 セットの乳製品規格 (第 3 セットは 2022 年に延期) の食品添加物基準の整合化
- 各乳製品カテゴリーにおけるいくつかの添加物、ならびに着色料および甘味料に関するの基準の見直し。

6 月 2 日の SCFA 会議の IDF イントラネットフォルダへのリンクは[ここ](#)にあります。

OECD

IDF は、OECD 商品市場委員会の協議と会議に参加し、OECD-FAO 農業アウトルック 2021-2030 草案の牛乳乳製品の章についてコメントを提供しました。農業アウトルックは 7 月 5 日にリリースされる予定です。

国連食料システムサミット (UNFSS)

IDF 食料システムサミット特別作業部会 TF-FSS は 4 月 28 日に会合を行いました。UNFSS 主張キットは、政府関係者との会議を容易にするために作成されました。会合を求めるレター草案、会合中に

役立つポイントと質問、およびいくつかの[参考文書](#)があります。皆さんの国の政府が現在、国内のフードシステム意見交換会を主催し、7月26日～28日に開催されるプレサミットへの参加の準備をしている間に会う良い機会です。さらに詳しい情報が必要な場合は、IDF 事務総長 DG にお問い合わせください。

IDF の [FSS 活動追跡ドキュメント](#) で、すべての IDF とその加盟国の活動を参照できます。

ニュースとコミュニケーション

IDF ニュース：

栄養シンポジウムは、食事における牛乳乳製品の重要な役割を確認します

食生活における牛乳乳製品の貢献に関する最新の科学をレビューする IDF 栄養シンポジウムには、世界中から数百人の保健専門家が集まります。[レポートのハイライトを含む報告書はまもなく入手可能になります。2日間のイベントがレコーディングされました。続きを読む](#)

IDF ウェブサイトのダイナミックな新しい外観

現在はライブですが、より多くの情報、画像、コンテンツが常に追加されており、IDF の科学的および技術的な牛乳乳製品の専門知識に刺激的な新しいデジタルホームを提供しています。新しい[学乳情報ハブ SchoolMilk KnowledgeHub](#) や [ミルクツリーMilktree - テクノロジーと使用法](#) などの新しいコンテンツをフィーチャー。

[続きを読む](#)

重要な栄養素としての乳糖に関する新しいブリテン

この新しいブリテンは、乳やその他の乳製品に自然に含まれる乳糖の栄養特性と健康特性に関する科学的証拠をまとめたものです。

[もっと読む](#)

IDF シンポジウムでのチーズに関する科学的専門知識

この 100%バーチャルイベントは、ライブおよびオンデマンドプレゼンテーション、ポスターワークショップ、ネットワーキング、Q&A テーマ別セッション、バーチャルブースなど、革新的なダイナミックな体験になる予定です。

[もっと読む](#)

GDP/IDF 合同声明-国連食料システムサミット

サミット事務局に対するグローバル・デーリー・プラットフォーム Global Dairy Platform との共同声明を読んで、経済、食生活、環境に対する畜産の価値を最大化する画期的なソリューションを検討してください。

[もっと読む](#)

その他のニュース：

ICAR カンファレンス 2021

4 月末に、家畜の能力検定に関する国際委員会（ICAR）が年次会議を開催しました。約 550 人の参加者が、レーワルデン（オランダ）のバーチャル環境に集まり、事前に録画されたビデオプレゼンテーション、短いピッチのライブディスカッションを組み合わせました。この会議は、中心テーマ「循環農業：家畜のパフォーマンス記録における課題と機会」を中心に開催されました。[もっと読む](#)

2030 年までの家畜の道筋：ワンヘルス（One Health）

この一連の短い記事は、政府、投資家、ワンヘルスの専門家、および政策立案者が促進および投資できる 7 つの主要分野と 22 の実践的行動分野に焦点を当てています。これらの分野は、介入間の連係とつながりを浮き彫りにし、システム思考の必要性を強調しています。[もっと読む](#)

今後の国際デーのリスト（2021 年 5 月～6 月）

- 2021 年 6 月 1 日：世界牛乳の日
- 2021 年 6 月 5 日：世界環境の日
- 2021 年 6 月 7 日：世界食品安全デー

出版物

[ISO 14501 | IDF 171 : 2021 乳および粉乳-アフラトキシン M1 含有量の測定-イムノアフィニティー クロマトグラフィーによるクリーンアップおよび高速液体クロマトグラフィーによる測定](#)

この文書は、乳および粉乳中のアフラトキシン M1 含有量を測定する方法を明示します。バリデーションの最低レベルは、全粉乳の場合は 0.08 $\mu\text{g}/\text{kg}$ 、例えば還元液状乳の場合は 0.008 $\mu\text{g}/\text{l}$ です。検出限界（LOD）は、粉乳で 0.05 $\mu\text{g}/\text{kg}$ 、液状乳で 0.005 $\mu\text{g}/\text{kg}$ です。定量限界（LOQ）は、粉乳で 0.1 $\mu\text{g}/\text{kg}$ 、液状乳で 0.01 $\mu\text{g}/\text{kg}$ です。この方法は、低脂肪乳、脱脂乳、低脂肪粉乳、脱脂粉乳にも適用できます。

[IDF プリテン 509/2021: 重要な栄養素である乳糖-牛乳乳製品とその内因性糖に対する改訂された政策アプローチを提唱](#)

乳、チーズ、ヨーグルト、その他の培養／発酵乳製品は複雑な構造で構成されており、いくつかの重要な栄養素の大切な供給源です。栄養豊富なパッケージの一部として、乳食品には天然に存在する糖である乳糖も含まれています。乳製品を独自の方法で検討し、その内在性の乳糖含有量の重要な栄養特性を評価することが重要です。

[ISO 21187 | IDF 196 : 2021 - 乳 - 微生物学的品質の定量的測定方法 - 代替法の結果とアンカー法の結果との間の変換関係を確立および検証するための手引き](#)

この文書は、代替法とアンカー法の結果との間の変換関係を確立するためのガイドライン、および乳の微生物学的品質の定量的測定のための検証を提供します。変換関係は、a) 代替法からアンカー法ベースに結果を変換するため、または b) アンカー法ベースで表される結果／制限を代替方法の単位での結果に変換するために使用できます。

イベントと会議

IDF 技術ウェビナーシリーズ

これまでに IDF 技術ウェビナーシリーズにご参加いただいたすべての方々に感謝します。これは大成功であり、私たちすべてが直面している困難な状況において、世界中の専門家らが酪農乳業科学の情報を交換・共有するためのプラットフォームを提供することに役立っています。「将来のフードシステムにおける動物由来食品の役割：専門家からの視点」に関する共同 GDP-IDF ウェビナーは[こちら](#)でご覧いただけます。「ネットゼロ：低炭素酪農への道筋 (Net Zero: Pathways to Low Carbon Dairy)」の詳細については、5月18日の IDF 事務総長 DG のプレゼンテーションを[ここ](#)で見ることができます。

今後のウェビナーとバーチャルイベントの詳細：

2021年6月7日～11日：IDF チーズの科学技術シンポジウム

6月に初めてオンラインで開催される IDF 国際チーズの科学技術シンポジウム 2020 に、国際的なチーズの専門家らは参加しましょう。最新の研究結果とイノベーションを共有します。[関連サイトはこちら](#)。

2021年6月7日～11日：バーチャル第11回 GASL MSP 会議

時間：14:00～16:30 中央ヨーロッパ夏時間 (CEST)。第11回 GASL MSP は2021年6月に予定されており、6月7日から11日まで完全にバーチャル化された会議に変わりました。英語、フランス語、スペイン語の同時通訳があります。登録は無料で受け付けています。[ここに登録](#)。この招待に参加し、皆様のネットワークに広めていただき、ありがとうございます。

2021年10月13日～15日：IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021 (IDF ビジネス会議9日～12日)

IDF グローバルデーリーカンファレンスは2021年10月9日～15日にデンマークのコペンハーゲンで開催されます。ビジネスミーティングは10月9日～12日に、カンファレンスは10月13日～15日に開催されます。この会議はハイブリッド方式で、物理的およびバーチャルでの参加が可能となる予定です。詳細については、www.idfglobaldairy.org をご覧ください。

IDF 技術ウェビナーとオンラインイベントをもう一度見る

IDF 技術ウェビナーは、IDF イン트라ネットからダウンロードできます。[ここから全てをご覧ください](#)

③ IDF チームアップデート - 2021年7月

国内事務官各位

IDF チームアップデート 2021年の第4号へようこそ。

2021年の第3四半期に入ります。多くの方々が夏休みの準備をされているところだと思いますので、過去2か月間のIDFの活動の一部を取り上げておきます。

この時期はIDFにとって進歩的で活気に満ちており、世界牛乳の日は6月1日に世界中で祝福されました。この毎年恒例のイベントでは、酪農乳業の持続可能性を達成し、二酸化炭素排出量を削減するために、世界の酪農乳業コミュニティが取らなければならない重要なステップが強調されました。恒例のグラスで乾杯イベントに加えて、今年はIDFコミュニティ全体の貢献に感謝します。今年も、[ここ](#)で見ることができるように、世界中のさまざまな活動を紹介しました。

その他のニュースとして、全世界の酪農乳業コミュニティは、国連食料システムサミットの準備に継続的に関与しており、事務局の作業や、さまざまな加盟国および独立した対話に貢献しています。5月下旬、IDFはキャンペーン「ファーマーズ・フォー・フードシステムズ (farmers4foodsystems)」イニシアチブにも参加しました。このイニシアチブは、食料生産における農家の重要な役割を強調し、国連食料システムサミットでその重要性を表明しています。

さらに、2021年10月13日～10月15日までコペンハーゲンで開催されるIDFグローバルデーリーカンファレンスとバーチャルアクセスのウェブサイトが公開されたことを会員にリマインドいたします。このエキサイティングな、来る世界的な酪農乳業イベントの詳細については、<https://idfglobaldairy.org/>をクリックして下さい。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

キャロライン・エモンド、IDF事務総長

ガバナンス最新情報

IDFプログラムオブワーク

IDFの主張

ニュースとコミュニケーション

出版物

イベントと会議

ガバナンス最新情報

IDF理事会の戦略的・組織的レビュー

IDF戦略2022-2025の草案は、IDF事務総長によって6月25日にレビューのために国内委員会に送付されました。コメントはアポリナ・フォス氏 afos@fil-idf.org に送付し、8月23日までに議長ヘレ・ハズビーHelle Huseby氏 helle.huseby@tine.no にコピーを送付してください。修正版は、9月20日までに送付される総会文書に含められる予定です。理事会は9月14日に会議を開き、すべての文書を検討します。IDF戦略2022-2025は、10月12日の総会で発表されます。国内委員会および議長・代理人から受け取ったコメントは、SPCCによってレビューされました。修正版はまもなくすべての専門家に送付されます。この文書は10月12日の総会で発表されます。

IDF 本部

コミュニケーション・マネージャーのニコラ・ゴフ氏が個人的な理由で辞任することをお知らせします。彼女の最後の勤務日は8月20日の予定です。彼女が IDF 内部および外部のコミュニケーションの改善に多大な貢献をしてくれたことに感謝します。彼女と彼女のチームは、今後数年間は続く強力な基盤を構築しました。彼女のさらなる活躍に期待しています。

IDF プログラムオブワーク

残留物質・化学汚染物質常設委員会 SCRCC、6月2日

SCRCC は、家畜給餌に関する新しい活動についての可能な議論のために、IDF 代表団が CCRVDF（コーデックス食品残留動物用医薬品部会）の次のセッションに出席することに同意しました。この常設委員会はいつものように参加者間で新たな問題を共有し、その結果を使用して汚染物質リポジトリの優先汚染物質をレビューしました。鉱物油汚染物質とマイクロプラスチックはまだ突然現れます。心に留めておくべきは内分泌攪乱物質とフタル酸エステル（特にフランスの新しい規制）です。アフラトキシン M1 はたぶん大きな問題ではありませんが、より多くの場所でより小さな事例に現れているようです。硝酸塩は、新しい項目として登場しています。

環境常設委員会 SCENV、6月4日

生態系サービスに関するアクションチーム AT は、生態系サービスが特に消費者にまだよく知られていないことを示す生態系サービスアプローチに関する彼らの見解について AT メンバーと協議しました。次のステップは夏と秋に行われ、メンバーは生態系サービスの各カテゴリに関するイニシアチブを示し、事例研究を使用してこのアプローチを自国の1つのセクターに適用する方法を説明します。現在、AT は定義に基づいて4種類の生態系サービスを扱っています。その4つのカテゴリに基づき、我々の目的はこれらのサービスからどのように利益を得るか、そして私たちがそれにプラスの影響を与えるか、それともサービスを提供するか、を見つけることです。マイナスの影響を与える場合は、その影響を改善する方法を示すことを目指しています。次の IDF 「酪農乳業の持続可能性見通し」第4号は、多くの国々からの興味深い寄稿を紹介します。

LCA アップデートのアクションチームは、S・デッカー-Dekker 氏（オランダ）／A・フライスジョー-Flysjö 氏（デンマーク）が主導しています。ブライアン・リンゼイ氏はプロジェクトマネージャーです。彼の活動は GDP から資金提供されています。カーボンフットプリントの IDF ガイドは、2009年に最初に作成され、2010年に公開され、2015年に更新されました。新しい AT は、このガイドを再更新する予定です。10か国以上から33名の専門家が加わり、世界中に優れた代表者がいます。目的は、バリューチェーンにおける温室効果ガス排出の産生を評価し、排出量をどのように改善及び削減できるかについて、酪農乳業界を支援することです。それらは、ホットスポットを特定し、経年的に改善を監視し、さまざまな緩和選択肢の影響の終了だけでなく、進捗状況を示すことを目的としています。さらに、同じ製品カテゴリの製品間のカーボンフットプリントをまとめたものです。この AT は、機能単位、範囲、限界、排出係数、データ品質評価、割り当て、土地利用、土地利用の変化など、いくつかのトピックを検討しています。理想的には、より完全な機能単位が提案され、製品の栄養価も最低でも捉えられることですが、それをどのように行うべきかについてのコンセンサスがなく、栄養価の方法／測定基準が未完成であるため、これはこのガイドの更新ではおそらく不可能です。第2四半期には、さまざまなトピックについて合意に達することが目的であり、第3四半期には文書作成が計画されています。理想的には、このガイドは第4四半期に完成し、公開協議と承認プロセスに出す準備ができていないはずですが、このスケジュール計画は非常に野心的であり、合意に達するプロセスがどのように進むかによって、遅れが生じる可能性があります。

マーケティング常設委員会 SCM、6月7日

年央会議は6月7日に開催されました。「世界の市場動向 2022」のATはその作業を開始し、追加の専門家を探しています。

乳業科学・技術常設委員会 SCDST、6月8日

酪農乳業における核酸増幅法の利用に関する新しい活動が開始されました。酪農乳業のサプライチェーンを通じて、微生物をより高感度かつ迅速に検出する必要性が高まっています。この活動項目の目標は、加工処理中に品質と安全性の基準を維持する上での分子技術の役割を評価し、生/死の方法論の次の段階で開発することです。熱処理後の利用などの課題があります。このイニシアチブには、SCMH と SCHMM の参加が含まれます。

ミルクツリー・ファクトシートは IDF のウェブサイト上に統合されているところです。「チーズと品種」または「生物防御」に関する2点のような、他のいくつかのファクトシートについては、IDF Web サイトの[乳業科学・技術](#)セクションに直接のリンクがあります。次のステップは、これらと他の既存のファクトシートを直接結び付けることです。たとえば、膜処理、乳糖、生乳チーズ、チーズに天然に存在する硝酸塩などを、ミルクツリー内で直接リンクします。

SPCC の推奨に従って、サーミゼーション、低温殺菌、ESL 技術、UHT 処理、および容器内滅菌に関するいくつかのドラフトのファクトシートが1つのドキュメントに統合され、ブリテンとして公開されます。ファクトシートの許容される長さは限られており、個々のファクトシートのためには情報が大きすぎます。ヒルトン・ディース氏、ジェフ・スミザーズ氏、IDF 本部、ウォルター・ビッシグ氏などによって、この統合文書には多大な努力が払われました。今必要なのは、原稿に参考文献を追加して、オープンアクセスのブリテンとして公開することだけです。

IDF グローバルデーリーカンファレンスは、2021年10月13日～15日の3日間、毎日午後13:00～17:00 CEST(中央ヨーロッパ夏時間)に4時間のイベントが開催される予定です。ホエイパーミエートなどのサイドストリームの処理はトピックの1つです。

農場管理常設委員会 SCFM、6月8日

今年は2つのバーチャル円卓会議が成功しました。この形式は現在十分に確立されており、3～4人のパネリストが短いビデオで農場を紹介し、特定のトピックについて話します。7月上旬と9月上旬には、さらに多くのウェビナーが計画されています。招待状は、日付が確定次第、別メールで送信される予定です。考えられるトピック：気候、家畜福祉、農場への労働力の誘致。本ウェビナーのアクションチームは、新しいアイデアを開発する予定です。

人間の生産に使用される製品からの副産物の利用に関するトピック（例えば、パーム油からのPKE (Palm Kernel Shell ; パーム椰子殻) の使用など) に関する家畜の給餌の動向に関するウェビナーが提案されました。

家畜の健康・福祉常設委員会 SCAHW、6月15日

出生から離乳までの子牛の管理に関するアクションチームは、3回の成功したウェビナーを開催し、4回目のウェビナーを行うように促されました。一つの調査はアクションチームATメンバーと国内委員会NCに送付されましたが、NCからのフィードバックは予想どおり少なくなりました。Covidの

ためにいくつかの遅延がありました。しかしながら、文献レビューが実施され、草案に取り組んでいます。結果は2022年に予想されます。

IDF「アニマルヘルスレポート」の記事はまもなく募集されます。したがって、IDF本部はすべての人々に関連記事を送ることを奨励しています。記事のアップロードの締め切りは9月末です。詳細情報と記事の提出方法は、まもなく常設委員会 SC と共有される予定です。

家畜の健康と生産性のためのセンサーの利用に関するガイドラインに関するアクションチームには、まもなく Journal of Dairy Science 誌で印刷される論文があります。この AT は代謝障害に関する活動を継続します。11人がこのガイドに積極的に取り組むことに関心を示しており、このグループはチームサイトを設置しました。

IDF グローバルデーリーカンファレンスは以下のトピックをカバーします： **パート1：酪農の気候フットプリントの削減**（持続可能な生乳生産-私たちは今日どこにいて、可能性と課題は何か？牛の役割と酪農の未来は何か？）そして **パート2 将来の需要を満たすための精密酪農**（センサー技術による生産、健康、出産の持続可能な管理）。

タンパク質特別作業部会 TF

タンパク質に関する特別作業部会は7月7日に会合を行いました。窒素換算係数が12月のコーデックス栄養・特殊用途食品部会 CCFNSDU のバーチャル会議の全体会議で議論されるかどうかはまだ不明です。メンバーは、GDPによって管理されているタンパク質の品質イニシアチブであるプロテウス Proteos について最新情報を共有し、IDFの次のステップと役割について話し合いました。

IDF の主張

6月4日、第48回世界食料安全保障委員会 CFS はアグロエコロジーおよびその他の革新的なアプローチに関するガイドラインを承認しました。この政策提言は、持続可能な農業と食料システムに向けて動き、改善するための状況に応じた措置の必要性、食料安全保障と栄養を強化する持続可能な農業とフードシステムのためのアグロエコロジーおよびその他の革新的なアプローチの実現条件を促進する必要性の認識を強調しています。彼らは、農業および食料システムの社会的、環境的および経済的側面を取り扱う国家固有の世界的に比較可能な指標および指標とともに、アグロエコロジーおよびその他の革新的なアプローチに適用可能および/または定義された広範囲かつ包摂的な評価の適用とさらなる開発の必要性を指摘します。詳細については、[こちらをご覧ください](#)。

国連食料システムサミット (UNFSS)

IDF 食料システムサミット特別作業部会 TF-FSS は6月21日に会合を行いました。プレサミットをきっかけに活動のレベルが高まっています。UNFSS 主張キットは、政府関係者との会合を容易にするために作成されました。会合を求めるレター草案、会合中に役立つポイントと質問、および [いくつかの参考文書](#)があります。あなたの国の政府が現在、国内のフードシステム意見交換会を主催し、7月26日～28日に開催されるプレサミットへの参加の準備をしている間に会う良い機会です。さらに詳しい情報が必要な場合は、IDF 事務総長 DG にお問い合わせください。

IDF 代表団は、7月8～9日のサイエンスデーと7月5～7日のサイドイベントに出席しました。7月5日、科学グループ Scientific Group は、[フードシステムの科学とイノベーションに関する草案文書と、食料の真のコストと真の価格](#)に関する文書を発表しました。

IDF の FSS 活動の [追跡ドキュメント](#)で、すべての IDF とその加盟国の活動参照できます。

IDF の会長であるピエールクリスチアーノ・ブラザーレ Piercristiano Brazzale が、7月下旬にローマで開催されるプレサミットに招待されたことに注目してください。彼は国連 FSS 事務局によって選ばれた民間セクターの代表者の小グループの一員です。

プレサミットプログラム草案と登録は、次の場所でアクセスできます ([プレサミット・国連](#))。世界の農業セクターの気候変動への野心を高めるためのセッション：7月26日の酪農乳業からのアプローチと7月27日のタンパク質に関する2つのセッションに注意してください。

コーデックス食品添加物部会 CCFA

CCFA の次のセッションは9月に開催されますが、作業部会 (WG) は6月21日～25日に開催されました。これらの WG の準備として、6月2日に開催される食品添加物常設委員会 SCFA 会議で次のことが議論されました。

- 乳製品規格の第2セット (第3セットは2022年に延期) の食品添加物基準の整合化
- いくつかの添加物、ならびに着色料および甘味料に関する各乳製品カテゴリにおける食品添加物基準の見直し。

以下は、先週の CCFA 作業部会会議の結果です。

- **食品添加物一般規格 (GSFA) :**
 - FC1.1.2 (他の液状乳、プレーン) のアルギン酸プロピレングリコールを除いて、すべての提案は提示されたとおりに推奨されます。これは、さらなる使用レベルのために回付されます。IDF は使用状況やレベルに関する情報を受け取っていなかったため、IDF の意見はありません。
- **食品添加物一般規格 (GSFA) の着色料 :**
 - 残念ながら、乳製品カテゴリの着色料の基準は時間の不足によって議論されませんでした。この議論は、9月の CCFA 会議、またはおそらく (2022年3月以前の) 次の作業部会会議に延期される予定です。
- **整合化 :**
 - この作業部会 WG は主にハイレベルの問題について議論し、表3の添加物に関する注記を作成することに合意しました。次の電子作業部会 eWG は、すでに整合化された基準について、この決定の具体的な実施を任務とします。初期作業を提供するための IDF の支援は、WG の議長によって評価されました。製品規格にリストされているいくつかの添加物は、JECFA 評価がないため、GSFA に転送されません。リストは、情報を得るために SCFA メンバーおよび国内委員会 NC と共有されます。食品添加物が必要な場合は、暴露評価とともに JECFA に提出する必要があります。
- **甘味料 :**
 - すべての提案は提示されたとおりに推奨されます。

報告書は、8月中旬までにコーデックスの Web サイトで入手できる予定です。

ニュースとコミュニケーション

IDF ニュース :

IDF は体細胞数の計測方法に関するブリテンを発表

世界中の酪農乳業セクターでは、乳房の健康を最適化することが望まれています。良好な乳房の健康は、家畜福祉の改善、生産効率の改善、家畜の健康の強化、および抗菌剤の使用量の削減につながります。通常、感染が発生すると、乳房の乳中体細胞数（SCC）が増加します。[もっと読む](#)

IDF はファーマーズ・フォー・フードシステム **farmers4foodsystems** キャンペーンに参加しています。

5 月下旬、IDF は「farmers4foodsystems」イニシアチブに参加し、食料生産における農家の重要な役割を認識し、国連食料システムサミットで彼らに発言の機会を与えました。<https://www.farmers4foodsystems.org/>にサインアップしてビデオを共有できます。このキャンペーンは英語、フランス語、スペイン語で利用できます。米国乳製品輸出評議会（USDEC）もキャンペーンをサポートしています。

学乳の知識ハブ School Milk Knowledge Hub は、世界中の学乳の重要性に関する情報を共有しています

IDF は、世界中の学乳プログラムの利点と組織に関する参考文献と専門知識をまとめた学乳の知識ハブを紹介できることを嬉しく思います。[もっと読む](#)

「デーリークラフト」ゲームは、酪農について楽しく学ぶことができます。

IDF のメンバーであるデーリー・ファーマーズ・オブ・オンタリオは、人気ゲームマインクラフト Minecraft の教育版であるデーリークラフト Dairycraft を開発し、若者に酪農のすべてについて教えています。[もっと読む](#)

その他のニュース：

IDF ブラジル国内委員会が牛乳・乳製品セクター会議所に参加

IDF ブラジル国内委員会が 7 月 6 日に牛乳・乳製品セクター会議所の正会員として議決権を持って任命されたことについて、ブラジルの仲間の皆さん、おめでとうございます。牛乳・乳製品セクター会議所は 2003 年 11 月 11 日にブラジリアに設置され、現在 30 の会員機関と常任ゲストで構成されています。ブラジル国内委員会は現在、会議所の科学のおよび技術的問題に責任を負っており、進捗状況を報告する必要があります。たとえば、ブラジル国内委員会 BR NC は現在、植物ベースの製品に関する酪農乳業セクターの意見を強化する責任を負っています。会議所で BRNC を代表する 2 人の現在のメンバーは、正会員としてのダニエラ・ブラガ・チェリーニ・ペレイラ Danielle Braga Chelini Pereira 氏と代替メンバーとしてのゲオリア・アルバレス・デ・カストロ GeórgiaAlvaresdeCastro 氏です。これはブラジル国内委員会にとって大きな成功です。

第 22 回ハーバード栄養肥満シンポジウム：21 世紀のグローバルフードシステムと持続可能な栄養

ハーバードの栄養肥満研究センター（NORCH）は、6 月 15 日に 2021 年のシンポジウムを開催し、ウォルター・ウィレット氏、ナムコロ・コビッチ氏、デリア・ランドルフ氏、ジェシカ・ファンゾ氏など、21 世紀のグローバルフードシステムと持続可能な栄養に関する素晴らしい講演者のリストを発表しました。このシンポジウムは録画されており、[こちら](#)のウェブサイトのリンクから入手できます。

OECD-FAO「農業アウトルック 2021-2030」

7月5日、OECDは年次OECD-FAO「[農業アウトルック 2021-2030](#)」を発表しました。このユニークな報告書は、食料と農業の未来を示しており、将来を見据えた政策立案の参考になります。これは、農産物、魚類、バイオ燃料について今後10年間の食料および農業市場を牽引する傾向を説明しています。要約も[ここ](#)で入手できます。

WFO 科学評議会：未加工の赤身肉の消費は健康上のリスクではない！

7月7日、世界農民組織WFOの科学評議会は、国連食料システムサミット2021のサイエンスデーに、梗概文書「未加工の赤身肉の消費は健康へのリスクではない」の正式な発表をアナウンスしました。[もっと読む](#)

畜産由来食品と持続可能な健康的な食事に関する論文の発表

6月9日に、[世界食糧計画 \(WFP\)](#)、[世界保健機関 \(WHO\)](#)、[国際家畜研究所 \(ILRI\)](#)、[国連食糧農業機関 \(FAO\)](#)と[国際農業開発基金 \(IFAD\)](#)の専門家の寄稿を含む「畜産由来食品と持続可能な健康的な食事」の報告書を発表しました。[ここから報告書全文をダウンロードしてください](#)。
今後の国際デーのリスト (2021年7月から8月)

- 世界人口デー- 2021年7月11日

出版物

[IDF ブリテン 511/2021: 生乳の微生物学的品質を決定するための換算式の適用に関する手引き](#)

このブリテンでは、約40年間に得られた経験について説明し、総菌数計測 (TBC) 単位の変換が適切な場面と、代替方法の単位を使用できる状況を示しています。これは、ユーザーが最適なアプローチを選択できるように、変換に対する3つの可能なアプローチの比較を提供します。提供される情報は、酪農乳業セクターが各試験室/地域/国またはその他の特定の目的に最適な決定を下すのに役立つことを目的としています。

[IDF ブリテン 510/2021: 体細胞数を決定するための方法に関する目録、評価および展望](#)

体細胞数 (SCC) は、乳中の体細胞の総数を表し、世界中の乳房の健康と生乳の品質の指標として使用されます。顕微鏡検査に基づく SCC の現在の参照方法は、扱いが難しいと説明されています。したがって、この活動の目的は、参照方法の基準を定義し、SCC を決定するために使用可能なすべての方法を図解し、新しい参照方法として使用できる可能性のある1つまたは2つの候補を推奨することです。

イベントと会議

IDF 技術ウェビナーシリーズ

これまでに IDF 技術ウェビナーシリーズにご参加いただいたすべての方々に感謝します。これは大成功であり、私たちすべてが直面している困難な状況において、世界中の専門家らが酪農乳業科学の情報を交換・共有するためのプラットフォームを提供することに役立っています。「将来のフードシステムにおける動物由来食品の役割：専門家からの視点」に関する共同 GDP-IDF ウェビナーは

[こちら](#)でご覧いただけます。「ネットゼロ：低炭素酪農への道筋（Net Zero: Pathways to Low Carbon Dairy）」の詳細については、5月18日のIDF事務総長DGのプレゼンテーションを[ここ](#)で見ることができます。

デジタルデーリー - 録画とプレゼンテーション

- [ウェビナー1：2021年6月21日月曜日-より持続可能な生産のためのデジタルツール：精密農業から生乳の品質まで、家畜生産、健康指標、ロボットに関するデータがどのように接続されているか。](#)
- [ウェビナー2：2021年6月23日水曜日-データ革命と生乳の品質：生乳の組成的および微生物学的品質を追跡し、システムを統合化させるための新しい方法論。](#)
- [ウェビナー3：2021年6月28日月曜日-加工処理とスマートファクトリー：スマートファクトリー、加工処理、および接続におけるIoTの使用](#)
- [ウェビナー4：2021年6月30日水曜日-パート：ブロックチェーンと透明なバリューチェーン：デジタル化がより透明なバリューチェーンを提供する方法と、ブロックチェーンテクノロジーと分散型台帳技術がサプライチェーンに革命をどのように起こすか。これらのテクノロジーの法的な意味は何か？](#)

今後のウェビナーとバーチャルイベントの詳細：

2021年10月13日～15日：IDFグローバルデーリーカンファレンス2021（IDFビジネス会議9日～12日）

IDFグローバルデーリーカンファレンスは2021年10月9日～15日にデンマークのコペンハーゲンで開催されます。ビジネスミーティングは10月9日～12日に、カンファレンスは10月13日～15日に開催されます。この会議はハイブリッド方式で、会議場およびバーチャルでの参加が可能となる予定です。詳細については、www.idfglobaldairy.orgをご覧ください。

IDF技術ウェビナーとオンラインイベントをもう一度見る

IDF技術ウェビナーは、IDFイントラネットからダウンロードできます。
[ここから全てご覧ください](#)

スタッフ連絡先

キャロライン・エモンド氏、dg@fil-idf.org
オーレリー・デュボア氏、adubois@fil-idf.org
コンスタンセ・ボイヤール氏、cboyer@fil-idf.org（ローレンス・リッケン氏の産休サポート）
マリア・サンチェス・マイナー博士、msanchezmainar@fil-idf.org
ニコラ・ゴフ氏、ngough@fil-idf.org
アポリナ・フォス氏、afos@fil-idf.org
ファティーマ・アームド氏、fahmed@fil-idf.org

皆様のご意見をお聞かせ下さい！

コメントや提案は事務総長 dg@fil-idf.org までご送付下さい。

2) IDF 質問状の概要と結果

2021年2月～2021年8月に受け付けた IDF 質問状について、次の通り報告します。整理番号の付いた IDF 質問状には、大きく分けて「新規活動項目」と「(IDF 出版物の) 発行承認」があります。ここでは、各質問状についてご紹介することで、IDF がどのような課題に取り組み始めたかあるいは継続しているかをお知らせします。

① 新規活動項目

IDF 本部から、2021年2月に IDF 本部から国内委員会宛に 11 件の新規活動項目が一括で送付されました。国内委員会事務局では、関係する各専門部会と協議し、それらをまとめて IDF 本部に回答しました。

酪農微生物分析法常設委員会 SCAMDM	新規活動項目 NWI 21/01 : ISO 26323 の改訂 IDF 213 乳製品 - 連続 pH 測定 (CpH) による乳製品カルチャーの酸性化活性の測定
家畜の健康・福祉常設委員会 SCAHW	新規活動項目 NWI 21/02 : 乳牛の暑熱ストレス
食品添加物・汚染物質分析法常設委員会 SCAMAC	新規活動項目 NWI 21/03 : 乳および乳製品中のアフラトキシン M1 検出のための定量的スクリーニング方法の検証のためのガイドライン
成分分析法常設委員会 SCAMC	新規活動項目 NWI 21/04 : 乳製品中の脂肪 - 核磁気共鳴 (NMR) の応用に関する手引き
酪農微生物分析法常設委員会 SCAMDM	新規活動項目 NWI 21/05 : ISO27025 の改訂版での IDF 意見 IDF149 - 水平標準への乳酸菌の同一性基準
加工助剤・指標分析法常設委員会 SCAMPAI	新規活動項目 21/06 : 他の乳製品粉末の不純物を特定するための ISO5739 IDF107 の拡張
乳業科学・技術常設委員会 SCDST	新規活動項目 NWI 21/07 : 乳業における分子方法論の利用
環境常設委員会 SCENV	新規活動項目 NWI 21/08 : 生態系サービスと酪農乳業セクター
食品添加物常設委員会 SCFA	新規活動項目 NWI 21/09 : 食品添加物のカクテル効果の可能性に関する IDF 意見 - 食品添加物を含有する乳製品の安全性への影響
微生物学的衛生常設委員会 SCMH	新規活動項目 NWI 21/10 : 乳製品に使用される微生物食品カルチャーの健康上の利点
栄養・健康常設委員会 SCNH および環境常設委員会 SCENV	新規活動項目 NWI 21/11 : 持続可能なフードシステムにおける健康的な食事の指標

② 発行承認

1. 質問状 0121/SCAMC

この質問状は、0121/SCAMC 「チーズの物理試験及び化学試験に係るサンプル調製のためのガイドダンス ISO/DIS 24223 | IDF253/2021 (Cheese - Guidance on sample preparation for physical and chemical testing ISO/DIS 24223|IDF 253/2021)」と題する ISO-IDF 国際規格の共同出版の発行承認を求めるものです。この質問状には、日本から承認を回答済みです。13 か国が回答し、日本を含む 13 か国が承認したので、発行が承認されました(現時点では出版されていません)。

2. 質問状 0221/SCAMAC

この質問状は、0221/SCAMAC「残留動物用医薬品のスクリーニング検査法のバリデーションに関する指針 (ISO/TS23758|IDF/RM 251) (Guidelines for the validation of qualitative screening methods for the detection of residues of veterinary drugs in milk and milk products ISO/TS 23758|IDF RM 251)」と題する ISO-IDF 国際規格の共同出版の発行承認を求めたものです。この質問状には、日本から承認を回答済みです。15 か国が回答し、日本を含む 14 か国が承認したので、発行が承認されました(現時点では出版されていません)。

3) 国際会議の予定

① IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021 の開催予定

今年度は、年次の IDF ワールドデーリーサミットにかえて、IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021 が開催されます。8 月上旬には、IDF ホームページ上に[本イベントの概要](#)が掲載されました。またイベント専用のウェブサイト (<https://idfglobaldairy.org/>) には、[予備プログラム](#)が掲載され、ハイブリッド方式で開催される本イベントへの[参加登録 \(出席方式を選択可能\)](#)が開始されています。たとえば、オンライン方式で 3 日間出席する場合の参加登録費用は、3000 デンマーククローネ (日本円で約 5 万 2000 円) です。

1. IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021 の概要

IDF デンマーク国内委員会は、2021 年 10 月 13 日～15 日、コペンハーゲンで第一回目の IDF グローバルデーリーカンファレンスを主催できることを誇らしく喜ばしく思います。会議テーマは「変化する酪農乳業への風当たり (仮訳) A changing climate for dairy」です。すべてのセッションが、今後数年間の酪農乳業にとってのこの非常に重要な問題を扱います。IDF 会員は、気候変動の緩和に貢献することへの大切なコミットメントを作成しましたが、消費者レベルの風当たりも急速に変化しています。欠くことのできない健康的で持続可能な製品の生産者として消費者の心の中心に居続けるための私たちの努力は、会議の重要な部分になります。

この会議はハイブリッドで開催されます:コペンハーゲンでのライブセッションとオンラインでの参加が可能です。会場はコペンハーゲンの中心部、チボリの真向かいにあるアクセルボルグ/NIMB です。参加登録は 8 月上旬に開始され、イベント全体への参加登録や、特定の日のみに参加することもできます。

詳細情報は、[イベント専用のウェブサイト](#)から入手できます。

今年の世界的な酪農乳業イベントに参加するチャンスをお見逃しなく！

2. 予備プログラム

ご参考まで、予備プログラムの仮訳を以下に掲載します。



IDF グローバルデーリーカンファレンス 2021 の予備プログラム

2021年8月2日時点の予備プログラム

10月13日水曜日

08:00-17:00	登録 会場: Axelborg, 4 Vesterbrogade, 1609 コペンハーゲン
12:00-13:00	ランチ 会場: Tivoli, 3 Vesterbrogade, 1630 コペンハーゲン
13:00-17:00	会議の会場: Axelborg, 4 Vesterbrogade, 1609 コペンハーゲン
13:00-15:00	<p>世界の酪農乳業の見通し</p> <p>歓迎とはじめに</p> <p>文化的休憩(デンマークの女優スージー・ウォルド)</p> <p>デンマークの酪農乳業セクターの紹介(デンマーク食料農業水産大臣ラスマス・プレム Rasmus Prehn)(事前録画メッセージ)</p> <p>歓迎スピーチ(EU委員ステラ・キリヤキデス Stella Kyriakides)(事前録画メッセージ)</p> <p>デーリー・リーダーズ・パネル</p> <p>酪農乳業セクターの機会(ピーター・トゥボー Peder Tuborgh, Arla Foods, DK)</p> <p>CEOらは、世界の酪農乳業セクターに対するビジョンや、今後数年間のセクターの発展をどのように予測するか、安全で栄養価の高い持続可能な牛乳乳製品で世界に栄養を供給する企業戦略を共有します(フィリップ・ブラッツィ Philippe Palazzi, ラクタリス, ジェフリー・ルー Jeffrey Lu, 蒙牛, および演者未定)</p> <p>パネルディスカッション(演者未定, RG・ソディ RG Sodhi, アムールがモデレーター)</p>
15:00-15:30	コーヒーブレイク
15:30-17:00	<p>IDF フォーラム(キャロライン・エモンド Caroline Emond, IDF, ジェイミー・ヨンカー Jamie Jonker)</p> <p>国連食料システムサミットからの持ち帰り(ジュディス・ブライアンス Judith Bryans 博士)</p> <p>DSF の最新情報(ブライアン・リンゼイ Brian Lindsay)</p>
19:00~22:00	<p>ワインとチーズのイベント-非公式の親睦会</p> <p>会場: Axelborg, 4 Vesterbrogade, 1609 コペンハーゲン</p>

10月14日 木曜日

11:00~12:00	新しい到着者の登録 会場: Axeltorg, 4 Vesterbrogade, 1609 コペンハーゲン
12:00~13:00	ランチ 会場: Tivoli, 3 Vesterbrogade, 1630 コペンハーゲン
13:00~17:00	会議場: Axeltorg, 4 Vesterbrogade, 1609 コペンハーゲン

<p>13:00-15:00</p> <p>持続可能な食事</p> <p>環境への関心が高まっており、重要となっているため、現在の市場で牛乳乳製品は課題を抱えています。持続可能な食事に関する議論で健康、文化、経済、環境の問題が考察されるためには、牛乳乳製品の栄養素と健康への影響の重要性を強調する必要があります。栄養的な健康の関係者と環境対策を組み合わせることを目的として、いくつかのモデルが開発されました。これらのモデルは、食物パターン、健康、および気候の間の関係を示すために役立ちます。</p> <p>食料システムアプローチを使用して食料の持続可能性と健康価値を計算するための食料モデル(モデレーターによる紹介)</p> <p>持続可能な食料システムアプローチ(イムケ・デ・ボア Imke de Boer, ワーゲニンゲン大学)</p> <p>米国は、DALYモデルに基づいて栄養と環境を組み合わせました(演者未定)</p> <p>オランダの OPTIMEAL 食料モデル(トム・ヒュパーツ Thom Huppertz, ワーゲニンゲン大学)</p> <p>EAT ランセットモデルに定義されている植物ベースの食事の長所と短所(演者未定)</p> <p>モデレーターとのパネルディスカッション</p>	<p>処理加工と技術</p> <p>現在、乳業プロセスおよび実装された技術は、バリューチェーン全体の持続可能性の向上に貢献しており、乳に固有の良く知られた高品質の栄養素を損ねることなく、すべての原材料を消費者に届ける必要があります。このセッションでは、バリューチェーンの加工処理のさまざまなステップでこれがどのように可能であるかを例示し、乳タンパク質類似物の生産のための新技術の可能性とその持続可能性の側面の洞察も提供します。</p> <p>モデレーターによる紹介</p> <p>持続可能な乳製品加工食品システムの展望(トム・ヒュパーツ、フリースランド・カンピーナ、ワーゲニンゲン大学、オランダ)</p> <p>発酵が可能にさせるバイオプロテクションを介した食料ロスの削減(パトリック・ダークス Patrick Derx, クリスチャン・ハンセン、デンマーク)</p> <p>南米での十分に利用されていないホエイへの価値の付加(パブロ・ジュリアーノ Pablo Juliano, CSIRO オーストラリア)</p> <p>乳業のサイドストリームの未来-持続可能な解決策(サイード・ラヒム・ヤズディ Saeed Rahim Yazdi, アーラフーズ、デンマーク)</p> <p>栄養のための乳業加工処理(イアン・ギブンス Ian Givens, レディング大学、英国)</p>	<p>農場経営</p> <p>このセッションでは、酪農の気候フットプリントを削減する方法について説明します。</p> <p>今日、持続可能な生乳生産はどこにあり、その可能性と課題は何でしょうか？牛の役割と酪農の未来は何でしょうか？第2部では、将来の需要を満たすための精密酪農と、センサー技術による生産、健康、生殖の持続可能な管理に焦点を当てます。</p> <p>はじめに(イルカ・クラアス Ilka Klaas, デラバル、スウェーデン、および演者未定)</p> <p>将来の酪農生産の役割、課題、グローバルな視点(ジュディス・カッパー Judith Capper, I&A, 英国)</p> <p>カーボンニュートラルな酪農への道筋-デンマークの事例から何を学ぶことができるか？(演者未定)</p> <p>メタン排出を削減するための給餌戦略-給餌(演者未定)</p> <p>MVP デーリー・オハイオ-実際の再生酪農-農場の目標、ビジョン、成果(演者未定)</p> <p>パネルディスカッション(全講演者)</p>
---	--	---

15:00-15:30	コーヒーブレイク
-------------	----------

15:30-17:00	<p>消費者重視のモデル(モデレーターによる紹介)</p> <p>ヨーロッパの SHARP 食料モデル (演者未定)</p> <p>世界の食料システムの物質収支に関する DELTA モデル (Nick Smith ニック・スミス、リデット研究所)</p> <p>モデレーターとのパネルディスカッション</p> <p>酪農乳業セクターへの影響と次のステップ(ドナルド・ムーア Donald Moore、GDP、およびキャロライン・エモンド Caroline Emond、IDF)</p>	<p>発酵による乳(マティアス・アイズナー Mathias Eisner、伊利グループ、オランダ)</p> <p>発酵乳タンパク質生産の持続可能性(Sara Mason サラ・メイソン、デューク大学、米国)</p> <p>ファシリテーターとの議論</p>	<p>はじめに(演者未定)</p> <p>持続可能な牛の繁殖とゲノム解析(演者未定)</p> <p>持続可能な牛の管理-長寿と経済学 vs. 気候フットプリント-利益相反?(演者未定)</p> <p>持続可能な牛の管理-センサー駆動の意思決定(イルカ・クラアス Ilka Klaas、デラバル、スウェーデン)</p> <p>パネルディスカッション(全講演者)</p>
-------------	--	---	---

19:00-24:00 会議ディナー
 会場: チボリのハンスクリスチャンアンデルセン城、H.C. Andersens Boulevard 22, 1553 コペンハーゲン

10月15日金曜日

11:00~12:00 新しい到着者の登録
 会場: Axelborg, 4 Vesterbrogade, 1609 コペンハーゲン

12:00-13:00 ランチ
 会場: Tivoli, 3 Vesterbrogade, 1630 コペンハーゲン

会場 会議場: Axelborg, 4 Vesterbrogade, 1609 コペンハーゲン

13:00-15:00	<p>マーケティング</p>	<p>食品安全</p> <p>この食品安全セッションでは、今日の食品安全コミュニティが注意を必要とするさまざまなテーマについて取り上げます。 FSC(食品安全カルチャー)、トレーサビリティの課題、および食品カルチャーと消化管の健康における最新の進展について聞きましょう。さらなるプレゼンテーションでは、新しいテスト手法とアプローチについて説明します。</p>	<p>政治・経済</p> <p>牛乳乳製品の世界市場の状況と、政策や消費者行動の変化が業界に与える影響-このセッションでは、生産と貿易の状況、乳業と国際機関の両方の予測について説明します。 今後の課題に対処するための酪農生産者と乳業の戦略は何でしょうか?</p>
-------------	-----------------------	---	---

<p>Covid-19 期間中の消費者行動</p> <p>コロナ危機が消費者行動と食料品やサービスの需要に与える影響</p> <p>外食産業の事例紹介</p> <p>ファシリテーターとの議論</p>	<p>酪農乳業チェーンへの圧力を軽減するための食品安全カルチャー (演者未定)</p> <p>PEM-加工処理環境モニタリング (演者未定)</p> <p>食品カルチャーと消化管の健康 (キャサリン・スタントン Catherine Stanton、アイルランド)</p> <p>コーデックスの開発と状況 (演者未定)</p>	<p>IDF「世界の酪農情況」報告書のプレゼンテーション (演者未定)</p> <p>FAO アウトルック-変化する気候の中で世界に栄養を供給 (演者未定)</p> <p>OECD-乳製品の生産と貿易に関する展望 (リー・アン・ジャクソン Lee Ann Jackson、農業食料貿易・市場部門長、OECD)</p> <p>IFCN-酪農生産者の観点から見た開発 (トルステン・ヘメ Torsten Hemme、IFCN)</p> <p>パネルディスカッション (モデレーター: マリー・レドマン Mary Ledman、グローバル・デーリー・ストラテジスト、ラボバンク)</p>
---	--	--

15:00-15:30 コーヒーブレイク			
15:30-17:00	<p>サステナビリティ指標</p> <p>持続可能性・気候コミュニケーション</p> <p>ファシリテーターとの議論</p>	<p>対象を絞ったスクリーニングと対象を絞らないスクリーニング-最先端の技術 (バート・ポッピング Bert Popping、ドイツ)</p> <p>事例紹介 1: 食品中の汚染物質を迅速に検出するための電気化学バイオセンサー (バレリエ・ガウディン Valérie Gaudin、フランス)</p> <p>事例紹介 2: FTIR での乳スクリーニング (ヘレン・ソイアート Hélène Soyeurt、ベルギー)</p> <p>次世代シーケンシングの適用による精密食品安全 (演者未定)</p> <p>事例紹介 3: 生乳チーズの S・Dublin 汚染に関するレトロスペクティブ疫学研究から学んだ教訓 (バレリー・ミツェル Valérie Michel、アクティアリア)</p>	<p>2050 年までにネット・ゼロ排出量に到達するためのデンマークの戦略 (クリスチアン・エリクナウアー Kristian Eriknaauer、アーラフーズ、デンマーク)</p> <p>英国の視点-実施される新しい農業政策と COP26 への期待 (演者未定)</p> <p>農業政策の将来の動向-次世代への期待 (演者未定)</p> <p>モデレーターとのパネルディスカッション (キルステン・ホルム・スベンソン Kirsten Holm Svendsen、IDF SCDPE 委員長)</p>

② IDF ビジネスミーティング (IDF 総会、IDF 事務局長会議、IDF 常設委員会会議及び特別作業部会会議) 2021 の開催予定

毎年 IDF ワールドデーリーサミット直前の 3-4 日間に IDF 総会、IDF 事務局長会議、各 IDF 常設委員会会議及び特別作業部会会議が開催されます。これらの会議を総称してビジネスミーティングと呼称しています。本年度は上記①に説明の通り、サミットに代わるグローバルデーリーカンファレンス 2021 が 10 月 13 日 (水) から 15 日 (金) にかけて開催され、その直前の 10 日 (日) から

12日（火）の3日間でIDFビジネスミーティングがハイブリッド方式（コペンハーゲンでのリアル会議＋バーチャル（zoom））で開催されます。

現時点では、それぞれ会議が次の日時に開催される予定です。国内委員会から登録しているIDF常設委員会委員を中心に当会専門分科会・小分科会よりそれぞれの会議に出席する予定です。

開催日	開催時間 (日本時間)	総会、事務局長会議、常設委員会、特別作業部会
10日(水)	17:00-19:00	IDF 微生物学的衛生常設委員会 (SCMH)
	20:00-22:00	IDF 環境常設委員会 (SCENV)
	20:00-22:00	IDF 事務局長会議
11日(木)	17:00-19:00	IDF 農場管理常設委員会 (SCFM)
	20:00-21:30	IDF 酪農政策・経済常設委員会/マーケティング常設委員会合同会議 (SCDPE/SCM)
	20:00-22:00	IDF 家畜の健康・福祉常設委員会 (SCAHW)
	21:45-23:00	IDF マーケティング常設委員会 (SCM)
	23:15-24:30	IDF 酪農政策・経済常設委員会 (SCDPE)
12日(金)	17:00-19:00	IDF 成分分析法常設委員会 (SCAMC)
	17:00-19:00	IDF 栄養・健康常設委員会 (SCNH)
	20:00-22:00	IDF 乳業科学・技術常設委員会 (SCDST)
	20:00-22:00	IDF 残留物質・化学汚染物質常設委員会 (SCRCC)
	20:00-23:00	IDF 総会

II GDP 関連

1) GDPブリテン、ニュースメール等から

① [GDPブリテン 2021年3月/4月号](#)から

「ネットゼロ・低炭素酪農への道筋 (Net Zero, Pathways to Low-Carbon Dairy)」の取り組みが今年後半に開始

農業には、環境への影響を減らす責任があります。酪農乳業は世界全体では人間活動による温室効果ガス (GHG) の3%未満を占めるにすぎませんが、地球の健全性を改善しつつ、すべての人々にとって持続可能な世界にしていくために、酪農乳業セクターができることはもっとあります。

そのため、GDPは[国連食糧農業機関](#) (FAO) 及び[国際酪農連盟](#) (IDF) と協力して、「ネットゼロ・低炭素酪農への道筋 (NZP)」の開発を主導しています。

NZP は以下のことをしようとしています。

- ・世界中のステークホルダーに参加してもらい、業界リーダーや気候専門家などとセクター全体の対話を開始し、酪農乳業セクターがパリ協定の実施にどのように貢献できるかを特定します。
- ・全世界の研究コミュニティと協力して、営農システム全体のさまざまな実践や技術の可能性を分析します。
- ・すでに気候変動対策を講じている企業や団体、国のチャンピオンズ（優等者）ネットワークを確立します。
- ・先進国と開発途上国のための協力のモデル、及び道筋を開発します。
- ・実践的な行動の方法論、及び道筋のガイドを作成します。
- ・炭素会計のための FAO モデルを利用して、デーリー・サステナビリティ・フレームワーク（DFS）を介して、進捗状況を世界的に追跡し、測定する。
- ・酪農乳業がどのように強靱性のある永続的な経済を生み出し、生活を変革するのかを示します。
- ・栄養価の高い乳製品が、飢餓と栄養不良を削減するために、責任ある持続可能な食料システムの中で非常に重要な役割を果たしていることを示します。

現在の状況

GDP、FAO、[ニュージーランド農業温室効果ガス研究センター](#)（NZAGRC）、及び[スコットランド・ルーラル・カレッジ](#)（SRUC）からの資金提供と支援を受けて、「農業温室効果ガスに関するグローバル・リサーチ・アライアンス（GRA）」が主導する技術的な実現可能性調査が現在進行中です。

同時に、GDP は酪農乳業セクター、政府、NGO や市民団体、政府間機関、学術界、その他の畜産グループ、及び商業銀行、開発機関、寄付者・財団を含む金融機関など、幅広いステークホルダーとともにこの取り組みについての協議を続けています。

NZP は好意的に受け取られており、正式な支持は増え続けています。また上記の各組織に加えて、以下の支持者があります。

- ・[デーリー・サステナビリティ・フレームワーク](#)（DSF）
- ・[持続可能な農業イニシアチブ・プラットフォーム](#)（SAI）
- ・[国際家畜研究所](#)（ILRI）

次のステップ

来たる [2021 年「国連食料システムサミット」](#) と [第 26 回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP26）](#) に先立って NZP を発足させ、持続可能な食料システムの重要な構成要素として酪農乳業を積極的に位置付けていきます。

新しい CFS 自主ガイドラインは健康的な食事における酪農乳業の役割を支持

数年間にわたる活動の後、[国連世界食料安全保障委員会](#)（CSF）は最近、「[食料システムと栄養に関する自主ガイドライン](#)（VGFSyN）」を採択しました。VGFSyN は、アクセス可能で、入手可能で、手頃な価格で、安全で、適切な質と量の栄養価の高い食事を支持しながら、持続可能な食料システムの実現と栄養の改善に世界的に貢献するよう設計されています。このガイドラインは、世界の食料システムが今後どのようになるべきかについての国連加盟国間の一般的な合意を表しているだけでなく、「国連食料システムサミット」前後に見込まれる政策提言の青写真になる可能性があるため、重要です。

GDP と IDF はこの活動全体に参画し、畜産や酪農、及び乳製品の栄養素に関して、エビデンスに基づくバランスの取れたアプローチを奨励しました。この参画によって、健康的な食事と持続可能な食料システムにおける酪農乳業の重要な役割を示す文言が VGFSyN に含まれることを確保しまし

た。

GDP は「国連食料システムサミット」の期間中、酪農乳業の声を届ける

GDP は IDP と共同で活動し、2030 年までの持続可能な開発目標の達成を加速することを目的としたイベントである「国連食料システムサミット (FSS)」全体で酪農乳業の位置づけを確保します。

「人民サミット」と呼ばれる FSS は、科学、企業、政策、ヘルスケア、政府、学术界、市民団体、農家、先住民、青年組織、消費者団体、活動家などの主要なステークホルダーを集めており、世界の食料の生産方式と消費方式を変革する可能性を秘めています。

GDP はこの活動に積極的に参画しています。世界中の何百ものソーシャルメディアのモビライザー（動かす人）や GDP のデーリーアンバサダー（講師）との数多くのトレーニングセッションを実施しており、酪農乳業の主張に参加するためのツールを提供しています。GDP と IDF は、このサミットで検討してもらうために、次の4つの「ゲームチェンジャー（状況を変える者）」としての解決策を提示しました。それらは「ネットゼロ・低炭素酪農への道筋」、「アフリカに栄養を与える酪農乳業 (Dairy Nourishes Africa; DNA)」、「デーリー・サステナビリティ・フレームワーク (DSF)」、「学校給食プログラムでの牛乳提供」である。これらの解決策へのこれまでの反応は肯定的です。

さらに GDP と多くの国際的な畜産組織は、畜産システムの利点と持続可能な食料システムで果たす重要な役割を強固にするため、国連食料システムサミットの事務総長特使や5つのアクショントラックの各委員長を含むサミット主催者と直接会合を行っています。

GDP は以前、今回のサミットにおける「民間セクター指導グループ (PSGG)」(※サミット運営側)に任命されていました。

② GDP ブリテン 2021 年 5 月/6 月号から

世界の酪農乳業セクターが「第21回世界牛乳の日 (ワールド・ミルク・デー)」を祝う

世界的な食品としての牛乳の重要性を認識し、酪農乳業セクターがもたらすプラスの効果を祝うために国連食糧農業機関 (FAO) によって2001年に設立された「世界牛乳の日」が、6月1日火曜日に行われます。

また、5月29日～31日には「エンジョイ・デーリー・ラリー」の祭典が開催され、事前に明るい話題を提供します。「エンジョイ・デーリー・ラリー」を3年連続で開催します。4日間で酪農乳業セクターの普及活動を行います。5月29日には牛乳乳製品の栄養を、30日には酪農乳業の地域社会や生計への貢献を、31日にはおいしい牛乳乳製品の楽しさを啓発します。

「世界牛乳の日」では、持続可能性をテーマに、環境負荷低減に向けた酪農乳業セクターの取り組みを紹介します。グローバル・デーリー・プラットフォーム (GDP) は、酪農乳業の低炭素化の未来に役立つテクノロジーを導入している酪農家やその他の人々からの動画について、ソーシャルメディアでシェアすることを奨励しています。そうすることで、新しい時代の酪農家が世界に紹介されることを願っています。さらに、酪農家の動画は、酪農のストーリーを本格的かつ魅力的に伝えることができます。

GDP は、この祭典への参加方法に関するステップバイステップガイド(※段階ごとの案内)を含む活動ガイドを作成しました。この活動ガイドや、その他の素材(メッセージ、ビデオ、インフォグラフィック、投稿サンプルなどの事例)をダウンロードするには、<https://worldmilkday.org/media-downloads> (ユーザー名: media、パスワード: WMD21Downloads) にアクセスしてください。

この祭典に参加して、これまでで最高の「世界牛乳の日」にすることをお手伝いください！



GDP は国連食料システムサミットで、酪農乳業の声を唱え続ける

7月26日～28日にローマで開催される「[国連食料システムサミット準備会合（プレサミット）](#)」が間近に迫っています。GDPは、食料システムの変革に関する議論の中で酪農の声が届くよう、サミットのあらゆる側面に積極的に関与していきます。

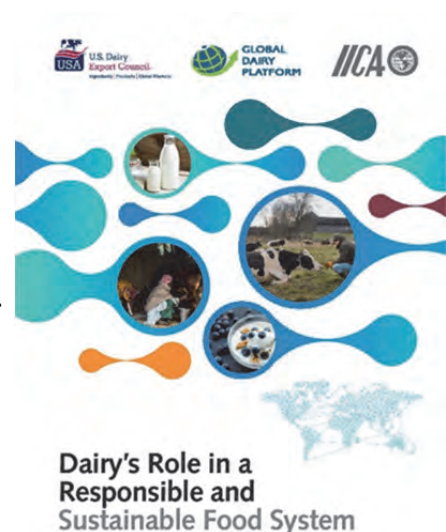
今回のサミットでは、「[ネットゼロ・低炭素酪農への道筋](#)（Net Zero, Pathways to Low-Carbon Dairy; NZP）」、「[アフリカに栄養を与える酪農乳業](#)（Dairy Nourishes Africa; DNA）」、「[デイリー・サステナビリティ・フレームワーク](#)（DSF）」、「[持続可能なたんぱく質](#)（Sustainable Protein）」の4つの「ゲームチェンジャー（状況を変える者）」となる解決策が提案されています。[国際酪農連盟](#)（IDF）も、「[学校給食プログラム](#)（School Milk）」の「ゲームチェンジャー」を提案しました。GDPは最近、このサミットの[アクショントラック#1](#)（すべての人に安全で栄養価の高い食品へのアクセスを確保する）および[アクショントラック#3](#)（自然に対してポジティブな生産を後押しする）のリーダーと会い、NZPとDNAを推進しました。

サミット内での酪農乳業への支援をさらに強化するため、GDPは国連加盟国（主に大使レベル）に対して説明会を行いました。これまでに、インド、アルゼンチン、タイ、デンマーク、アメリカなど、予定している25回の会議のうち15回が実施されています。サミット自体は9月にニューヨークで予定されています（日付は未定）。

食の未来における酪農乳業の役割を詳細に述べた新刊を発表

GDPは、[米州農業協力機構](#)（IICA）、および[アメリカ乳製品輸出協会](#)（USDEC）と協力して、新しい技術出版物「[責任ある持続可能な食料システムにおける酪農乳業の役割](#)（Dairy's Role in a Responsible and Sustainable Food System）」を発表しました。この報告書は、昨年開催された[ウェビナー](#)を要約したもので、英語とスペイン語の両方で提供されています。このウェビナーには、500人を超える政府関係者、業界の代表者、酪農関係者、学術関係者、市民社会組織、およびメディア関係者が参加しました。

（※Jミルクにて仮訳を作成し、Webサイトに掲載予定です。）



② [GDP ブリテン 2021 年 7 月 / 8 月号](#)から

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」、気候変動への取り組み（イニシアチブ）を発表

世界の酪農乳業セクター全体で気候変動対策を加速するために、初めての「[酪農乳業ネットゼロへの道筋](#)（Pathways to Dairy Net Zero）」という取り組み（イニシアチブ）が開発されています。2021年7月26日月曜日に[国連食料システムサミット準備会合（プレサミット）](#)で発表された、この気候変動への取り組みは、規模、幅、範囲の点で、農業におけるこれまでの取り組みとは異なります。

（※これまで、「ネットゼロ・低炭素酪農への道筋（Net Zero, Pathways to Low-Carbon Dairy）」という名称で進めていましたが、正式に上記の名称に決まりました。）

グローバル・デーリー・プラットフォーム（GDP）の専務理事であるドナルド・ムーアは、「世界の酪農乳業セクターは、10億人の生計を立て、60億人に重要な栄養を提供し続けながら、すでに取り組んでいる気候変動対策を加速させるために、この画期的な取り組みを行っています。」と述べています。

全世界の酪農乳業セクターや科学研究機関の代表者を含む複数のステークホルダーの組織グループが協力して、すべての酪農乳業システムで機能する方法論、ツール、および道筋を開発しています。これらの組織には、[GDP](#)、[国際酪農連盟（IDF）](#)、[持続可能な農業イニシアチブ・プラットフォーム（SAI）](#)、[国際家畜研究所（ILRI）](#)、[デーリー・サステナビリティ・フレームワーク（DSF）](#)、[IFCN 酪農研究ネットワーク](#)が含まれます。「[農業温室効果ガスに関するグローバル・リサーチ・アライアンス（GRA）](#)」はナレッジパートナーです。

今回のプレサミットの[付属セッション](#)では、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」がテーマとなりました。ウルグアイ、ニュージーランド、ケニア、コスタリカの各政府が主催したこのセッションでは、気候変動への取り組みの概要を説明するとともに、世界中の酪農乳業セクターがどのように地球環境への影響を低減しているか、また一方で、栄養面を安定的に供給し、強固で強靱性のある永続的な経済を支えているかを探りました。

このセッションの録画については、[こちらをクリック](#)

この戦略的・野心的取り組みは、9月の国連食料システムサミットで正式に立ち上げ、11月の国連気候変動会議（COP26）でコミットメントを表明することを目的としています。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の詳細については、[こちらをクリック](#)



2021年国連食料システムサミット準備会合で酪農乳業が存在感を示す

[国連食料システムサミット準備会合（プレサミット）](#)が2021年7月26～28日に開催され、GDPはサミットの活動全体を通して酪農乳業の声が確実に届くよう、積極的に関与しました。

国際酪農連盟（IDF）の会長、兼 GDP 理事であるピエールクリスチアーノ・ブラザー氏は、このプレサミットに直接出席するために選ばれたわずか10人の民間セクターの代表者の1人です。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」に関する付属セッションに加えて、GDPはサミットの[「サイエンス・デイズ」のプログラム](#)において、たんぱく質の特質に関するセッションの開催を支援しました。このイベントでは、3人のたんぱく質栄養学の専門家が、健康的で持続可能な食事におけるたんぱく質の特質の重要性について講演しました。

このプロテインのセッションの詳細については、[こちらをクリック](#)

サミット期間中、家畜由来の食品が議題として扱われることへの懸念を受け、GDPをはじめとする7つの国際的な畜産協会組織（IDFを含む）は、サミット期間中およびそれ以降も協力し、家畜の利点が政府および政府間レベルで理解され、認識されるようにするための「畜産連合」の設立に向け、各国との協議に入りました。

2021年の「世界牛乳の日」は過去最高の成功を収める

世界中の酪農乳業セクターからの強力なサポートのおかげで、2021年の[「世界牛乳の日」](#)はこれまでで最高の成功を収めました。世界100カ国以上が参加し、これまでのレベルをはるかに超えたSNSのリーチ数を獲得し、強いインパクトをもたらしました。

5月29日～31日に開催された「エンジョイ・デーリー・ラリー」を皮切りに、6月1日の「世界牛乳の日」で最高潮に達しました。栄養、地域社会、楽しさをテーマにした「エンジョイ・デーリー・ラリー」が3年連続で開催され、4日間にわたる酪農乳業セクターのプロモーション活動に貢献しました。

また今年のテーマは持続可能性に焦点を当て、環境への負荷を低減するための酪農乳業のイノベーションへの取り組みが紹介されました。世界各地の酪農家からの様々な動画により、酪農乳業セクターの持続可能な未来を作り出すために、どのようにテクノロジーを取り入れているかを示しました。

酪農乳業のためのすばらしいコンテンツを、結果の概要とともにいくつか紹介します。

最終報告書については、[こちらをクリック](#)

質問および詳細については、Info@GlobalDairyPlatform.comまでお問い合わせください。

2) 国際会議の予定

① GDP「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の立ち上げ説明会

開催日：2021年9月13日（月）6:00～8:00（米国中部時間）

※日本時間では、20:00～22:00

開催方式：バーチャル開催

概要：酪農乳業の協会や団体の関係者を対象に、「酪農乳業ネットゼロへの道筋（Pathways to Dairy Net Zero）」の計画について説明会を開催しますので、ぜひご参加ください。（※これに先立ち、9月9日に全世界の酪農乳業セクターのCEOや上級役員に向けた同様の説明会が開催されます。）

このバーチャルイベントへの登録については、[こちらをクリック](#)

なぜ参加するのか？

- 気候変動が酪農乳業の最大の課題であるとされる中、私たちは地球への影響を低減するための行動を加速させなければなりません。
- 全世界の 10 億人の生計を立て、食料と栄養を安定供給し続けながら、GHG 排出量を削減するという画期的な取り組み（イニシアチブ）に着手し、酪農乳業がどのようにこの課題に立ち向かっているかを紹介します。
- 参加者の皆様には、包括的な概要をご説明するとともに、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」に参加する方法を紹介します。

議題

- 歓迎と開会の言葉：キャロライン・エモンド（IDF 事務総長）
- 「酪農乳業ネットゼロへの道筋」とは：ドナルド・ムーア（GDP 専務理事）
- 実現可能性調査の結果について：ヘイデン・モンゴメリー（GRA 特別代表）
- なぜ今、このイニシアチブが重要なのか：FAO 代表（招待）
- 測定について：ブライアン・リンゼイ（DSF・ディレクター）
- サポート/コミットメントの提供方法：ピエールクリスチアーノ・ブラザーレ（IDF 会長）、SAI 代表、ILRI 代表、IFCN 代表
- コミュニケーションの立ち上げ計画：ケビン・バーカム（GDP コミュニケーション・ディレクター）
- 質疑応答：全員

② GDP 年次会議

開催日：2021 年 11 月 17 日（月）[6:00～9:30](#)

または [18:00～21:30](#)（アメリカ中部時間）

※日本時間では、21:00～24:30

または 11/18 9:00～12:30

開催方式：バーチャル開催

本会議は、さまざまなタイムゾーンに対応するため、2 回開催されます。ご都合の良い時間帯をお選びいただけます。

このバーチャルイベントへの登録については、上記の時間帯をクリック
議題などの詳細は、近日中にお知らせします。

III その他国際組織関連（IFCN、DSF 含む）

1) 国際会議の報告・予定

① 22nd IFCN Dairy Conference 2021 (IFCN 年次総会 2021)

開催日：2021 年 6 月 8 日（火）～9 日（水）

開催方式：昨年続き新型コロナの影響でバーチャル開催

参加者数：650 から 700 名（一日あたり、両日とも）

概要：IFCN 年次総会では、毎年カンファレンスのテーマを決めており、今年は「世界の酪農セクターでは 2025 年のカーボンニュートラルを達成することが可能か？」でした。この議題に関してはメインカンファレンスの位置づけになっている 2 日目に、集中的に議論されました。（主要なイベントとなった主要組織のリーダー 4 名によるパネルディスカッションの内容の一部は、次号の J ミルク国際 Dairy レポートで取り上げる予定です。）

会議の詳細に関しては、下記サイトを参照ください（有料）：

<https://dairyreport.online/dairy-conference-2021/>

② 20th IFCN Supporter Conference 2021

開催日：2021 年 9 月 15 日（水）

開催方式：昨年続き新型コロナの影響でバーチャル開催

参加予定者：IFCN 有料会員、IFCN リサーチャー限定

概要：今回の会議テーマは、「酪農のデジタル化、世界の酪農の将来をどの様にデザインするか？」です。

③ DSF Members Annual Meeting 2021 (DSF 会員年次総会 2021)

開催日：2021 年 11 月 30 日（火）19:00～22:00（イギリス時間）

※日本時間では、12/1 4:00～7:00

開催方式：バーチャル開催

参加予定者：DSF 会員限定

概要：今回の会議テーマは、「取り組み活動の効果的進展のためのメンバー交流強化」です。

2. 国際会議等の日程及び出版物の紹介

I 国際会議等の日程

今後開催される IDF 国際会議、関連コーデックス会議、ならびに GDP 国際会議、IFCN 国際会議等の日程は次のとおりです（IDF TIMETABLE OF MEETINGS, 2021 年 5 月などを参照）。詳細ご希望の方は、国際委員会事務局までお問い合わせ下さい。

	年 月 日	国際会議	関連コーデックス会議	開催場所
1	2021 年 9 月 1 日 (水)～10 日(金)		コーデックス食品添加物部会	バーチャル
2	9 月 9 日 (木)、9 月 13 日 (月)	GDP「酪農乳業ネットゼロへの 道筋」説明会 (9/9 は CEO・上級役員限定、 9/13 は関係者全般向け)		バーチャル
3	9 月 15 日 (水)	20th IFCN Supporter Conference 2021 (会員限定)		バーチャル
4	9 月 26 日 (日)～ 10 月 1 日 (金)		コーデックス食品表示 部会	未定
5	10 月 4 日 (月)～ 8 日 (金)	IMP-GDP 年次会議		スイス
6	10 月 10 日 (日) ～12 日 (火)	IDF ビジネスミーティング		コペンハーゲン (デンマーク) + バーチャル
7	10 月 13 日 (水) ～15 日 (金)	IDF グローバルデーリーカ ンファレンス*1		コペンハーゲン (デンマーク) + バーチャル
8	11 月 8 日 (月)～ 13 日 (土)		コーデックス第 44 回総 会	未定
9	11 月 17 日 (水)	GDP 年次会議		バーチャル
10	11 月 18 日 (木)	DSF 年次会議		バーチャル

11	11月22日(月) ～26日(金)		コーデックス栄養・特殊 用途食品部会	未定
12	11月29日(月) ～12月3日(金)		コーデックス食品衛生 部会	未定
13	11月30日(火)	DSF 会員年次総会		バーチャル
14	2022年4月25日 (月)～28日(木)	IDF/ISO 分析ウィーク		コンスタンツ(ド イツ)
15	2022年10月28 日(金)～31日 (月)	IDF ビジネスミーティング		デリー (インド)
16	2022年11月1日 (火)～4日(金)	IDF ワールドデーリーサミ ット		デリー (インド)
17	2023年	IDF ワールドデーリーサミ ット		北京 (中国)
18	2024年	IDF ワールドデーリーサミ ット		パリ (フランス)

*1 詳しい情報はウェブサイト (<https://idfglobaldairy.org/>) を参照。

II 国際組織の出版物

① IDF ブリテン

出 版 物		標 題 及 び 概 要
1	IDF ブリテン 508 (2021年1月)	<p>乳中の体細胞数測定のための欧州委員会共同研究センター認定標準品の応用に関する手引き</p> <p>このブリテンは、顕微鏡での参照法とルーチン法の両方の方法のパフォーマンス検証、ルーチン法のキャリブレーション設定の検証と必要な調整、二次標準物質への参照値の割り当て、および技能試験での使用にこの標準品を適用する方法に関連する手引きを提供します。</p> <p>(全文 19 頁)</p>
2	IDF ブリテン 509 (2021年4月)	<p>重要な栄養素である乳糖 - 牛乳乳製品とその内因性糖に対する改訂された政策アプローチを提唱</p> <p>乳、チーズ、ヨーグルト、その他の培養/発酵乳製品は複雑な構造で構成されており、いくつかの重要な栄養素の大切な供給源です。栄養豊富なパッケージの一部として、乳食品には天然に存在する糖である乳糖も含まれています。乳製品を独自の方法で検討し、その内在性の乳糖含有量の重要な栄養特性を評価することが重要です。</p> <p>(全文 25 頁)</p>
3	IDF ブリテン 510 (2021年5月)	<p>体細胞数を決定するための方法に関する目録、評価および展望</p> <p>体細胞数 (SCC) は、乳中の体細胞の総数を表し、世界中の乳房の健康と生乳の品質の指標として使用されます。顕微鏡検査に基づく SCC の現在の参照方法は、扱いが難しいと説明されています。したがって、この活動の目的は、参照方法の基準を定義し、SCC を決定するために使用可能なすべての方法を図解し、新しい参照方法として使用できる可能性のある 1 つまたは 2 つの候補を推奨することです。</p> <p>(全文 62 頁)</p>
4	IDF ブリテン 511 (2021年6月)	<p>生乳の微生物学的品質を決定するための換算式の適用に関する手引き</p> <p>このブリテンでは、約 40 年間に得られた経験について説明し、総菌数計測 (TBC) 単位の変換が適切な場面と、代替方法の単位を</p>

	<p>使用できる状況を示しています。これは、ユーザーが最適なアプローチを選択できるように、変換に対する3つの可能なアプローチの比較を提供します。提供される情報は、酪農乳業セクターが各試験室/地域/国またはその他の特定の目的に最適な決定を下すのに役立つことを目的としています。</p> <p style="text-align: right;">(全文 37 頁)</p>
--	---

② ISO/IDF スタンダード

出 版 物		標 題 及 び 概 要
1	<p>スタンダード 244:2021 (ISO22184:2021)</p>	<p>乳および乳製品 - 糖含有量の測定 - パルスアンペロメトリック検出法 (HPAEC-PAD) を使用した陰イオン交換高速クロマトグラフィー</p> <p>この文書は、内部標準としてアラビノースを適用して、さまざまなミルクおよび乳製品中の特定の糖（ガラクトース、グルコース、フルクトース、スクロース、ラクトース、およびマルトース）の定量的液体クロマトグラフィー測定を明示します。</p>
2	<p>スタンダード 196:2021 (ISO21187:2021)</p>	<p>乳 - 微生物学的品質の定量的決定方法 - 代替法の結果と標準法の結果との間の変換関係を確立および検証するための手引き</p> <p>この文書は、代替法と標準法の結果との間の変換関係を確立するためのガイドライン、および乳の微生物学的品質の定量的決定のための検証を提供します。変換関係は、a) 代替法から標準法ベースに結果を変換するため、または b) 標準法ベースで表される結果/制限を代替方法の単位での結果に変換するために使用できます。</p>
3	<p>スタンダード 171:2021 (ISO14501:2021)</p>	<p>乳および粉乳-アフラトキシン M1 含有量の測定-イムノアフィニティークロマトグラフィーによるクリーンアップおよび高速液体クロマトグラフィーによる測定</p> <p>この文書は、乳および粉乳中のアフラトキシン M1 含有量を測定する方法を明示します。バリデーションの最低レベルは、全粉乳の場合は 0.08 µg/kg、例えば還元液状乳の場合は 0.008 µg/l です。検出限界 (LOD) は、粉乳で 0.05 µg/kg、液状乳で 0.005 µg/kg です。定量限界 (LOQ) は、粉乳で 0.1 µg/kg、液状乳で 0.01 µg/kg です。この方法は、低脂肪乳、脱脂乳、低脂肪粉乳、脱脂粉乳にも適用できます。</p>

③ その他の出版物

出 版 物		標 題 及 び 概 要
1	その他の出版物 (2021年4月)	<p>USDEC、GDP、IICA「責任ある持続可能な食料システムにおける乳製品の役割」</p> <p>GDP は、米州農業協力機関（IICA）およびアメリカ乳製品輸出協会（USDEC）と協力して、新しい技術出版物「責任ある持続可能なフードシステムにおける酪農乳業の役割」を発表しました。この出版物は、2020年8月にIICAが主催したウェビナーの講演を基に作成したものです。ウェビナーには、政府関係者、業界関係者、農家、学者、市民組織、メディアら500人以上が参加しました。</p> <p style="text-align: right;">(全文 36 頁)</p>
2	その他の出版物 (2021年7月)	<p>IDF「酪農乳業の持続可能性見通し」第4号</p> <p>IDF 酪農乳業の持続可能性見通し第4号は、国連食料システムサミットに向けた特別編です。このサミットの5つのアクショントラックごとに、酪農乳業コミュニティの事例が紹介され、持続可能な生産システムを通じて安全で栄養価の高い食品で世界の人々に栄養を供給する本セクターの取り組みが紹介されています。</p> <p style="text-align: right;">(全文 29 頁)</p>

3. 国際委員会活動報告と主な国際情報提供

I 国際委員会実施報告

1) 国際委員会

① 2021年度第1回国際委員会

2021年度第1回国際委員会は、6月18日（金）、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催されました。議題に入る前に、委員長・副委員長の選任、事務局長の指名、特別委員の任命が行われました。

議題及びその審議結果は次のとおりです。

(1) 協議事項

- ① 国際委員会の設立経過、当面する運営及び各専門分科会等の主な活動内容について
- ② 2021年度国際委員会活動計画について

上記協議事項①、②とも資料に基づき、説明が行われ、出席委員の多数の賛成により事務局提案の通り承認されました。

(2) 報告事項

- ① 特定賛助会員の加入状況及び国際関連事業負担金拠出Jミルク正会員の状況について
 - ② 専門分科会委員について
 - ③ IDF 常設委員会委員等について
 - ④ 国連フードシステムサミットへのJミルクコミットメントについて
- 上記報告事項①～④とも資料に基づき、説明が行われ、異議なく了解されました。

② 2021年度第2回国際委員会

2021年度第2回国際委員会は、10月下旬から11月上旬に、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催が予定されています。

2) 国際広報分科会

① 2021年度第1回国際広報分科会

2021年度第1回国際広報分科会は、10月上旬に、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催が予定されています。

3) 国際組織活動連絡会議

① 2021年度第1回 GDP 日本会員連絡会議

2021年度第1回 GDP 日本会員連絡会議は、4月14日（金）、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催されました。

- (1) 最近の GDP の主な活動内容について
- (2) フードシステムサミットへの対応について
- (3) DSF 加盟について
- (4) 今後の日本における GDP 関連活動の進め方

上記議題 (1) ～ (3) について資料に基づき、情報共有するとともに、上記 (4) について意見交換が行われました。

② 2021年度第2回 GDP 日本会員連絡会議

2021年度第2回 GDP 日本会員連絡会議は、7月7日（水）、Jミルク会議室を開催場所とするウェブ会議で開催されました。

- (1) 最近の酪農情況を取り巻く世界的課題と最近の GDP の動きについて
 - (2) 国際委員会の発足と GDP 活動について・本会議の開催について
- 上記議題 (1)、(2) について資料に基づき、情報共有するとともに、国際組織活動連絡会議の一環として今後は GDP 日本会員連絡会議を年間数回開催することが了解されました。

II 専門分科会活動報告

国際委員会が設置されて以降、2021年8月31日までに以下の専門分科会・専門小分科会が開催されました。また、9月の開催予定をお知らせします。

1) コーデックス関連活動

① 2021年度第1回国際規格専門分科会

日時：2021年8月4日（水）13:30～16:10

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室及びウェブ（Zoom）

議題：

- (1) IDF 規格・表示常設委員会会議出席報告
- (2) IDF 規格・表示常設委員会/栄養・健康常設委員会合同会議出席報告
- (3) IDF 食品添加物常設委員会出席報告
- (4) 第52回コーデックス食品添加物部会議題案の説明
- (5) 第52回コーデックス食品添加物部会議題資料（硝酸塩・亜硝酸塩）について
- (6) コーデックス食品添加物部作業部会会議出席報告
- (7) Jミルク国際委員会及び専門分科会・小分科会の活動について
- (8) その他

2) 持続可能性関連活動

① 2021年度第1回酪農生産専門分科会

日時：2021年8月31日（火）13:30～16:30

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室＋ウェブ（Zoom）

議題：

- (1) IDF 農場管理常設委員会出席報告
- (2) IDF パラ結核症フォーラム出席報告
- (3) IDF 環境常設委員会出席報告
- (4) Jミルク国際委員会及び専門分科会・小分科会の活動について
- (5) GDP (Global Dairy Platform) 報告
- (6) IFCN (International Farm Comparison Network) 報告
- (7) その他

② 2021年度第1回経済市場専門分科会（予定）

日時：2021年9月3日（金）13:30～16:30

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室＋ウェブ（Zoom）

議題：

- (1) IDF 酪農政策・経済常設委員会出席報告
- (2) IDF マーケティング常設委員会出席報告
- (3) IDF フードシステムサミット特別作業部会出席報告
- (4) Jミルク国際委員会及び専門分科会・小分科会の活動について
- (5) GDP (Global Dairy Platform) 報告
- (6) IFCN (International Farm Comparison Network) 報告
- (7) その他

③ 2021年度第1回栄養健康専門分科会 (予定)

日時：2021年9月8日(水) 13:30～17:00

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室+ウェブ (Zoom)

議題：

- (1) IDF 栄養シンポジウム出席報告
- (2) IDF 栄養・健康常設委員会出席報告
- (3) IDF 規格・表示常設委員会/栄養・健康常設委員会合同会議出席報告
- (4) Jミルク国際委員会及び専門分科会・小分科会の活動について
- (5) GDP (Global Dairy Platform) 報告
- (6) その他

④ 2021年度第1回乳業技術専門分科会 (予定)

日時：2021年9月16日(木) 13:30～17:00

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室+ウェブ (Zoom)

議題：

- (1) IDF チーズの科学と技術シンポジウム出席報告
- (2) IDF 乳業技術常設委員会出席報告
- (3) IDF 環境常設委員会出席報告
- (4) Jミルク国際委員会及び専門分科会・小分科会の活動について
- (5) GDP (Global Dairy Platform) 報告
- (6) その他

3) IDF/ISO 分析法関連活動

① 2021年度第1回分析技術・衛生専門分科会

日時：2021年7月30日(水) 13:30～16:30

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室及びウェブ (Zoom)

議題：

- (1) IDF 統計・自動化常設委員会会議出席報告
- (2) IDF 成分分析法常設委員会出席報告
- (3) IDF 加工助剤・指標分析法常設委員会出席報告
- (4) IDF 食品添加物・汚染物質分析法常設委員会出席報告
- (5) IDF 質問状の回答について
- (6) 最近の IDF/ISO 合同分析法規格の出版について
- (7) コーデックス規格 234 (乳・乳製品関連) について
- (8) Jミルク国際委員会及び専門分科会・小分科会の活動について
- (9) その他

② 2021年度第1回微生物・衛生専門小分科会

日時：2021年8月20日(金) 13:30～16:30

場所：お茶の水ユニオンビル5階JミルクB会議室及びウェブ (Zoom)

議題：

- (1) IDF 酪農微生物分析法常設委員会出席報告
- (2) IDF 微生物分析法ハーモニゼーション常設委員会
- (3) IDF/ISO ビフィズス菌測定法改正案における共同試験の実施概要及び参加要請
- (4) IDF 微生物学的衛生常設委員会出席報告
- (5) IDF 質問状の回答について
- (6) Jミルク国際委員会及び専門分科会・小分科会の活動について
- (7) その他

Ⅲ 国際情報提供

① 国際委員会定期刊行物

国際委員会では、本誌「Jミルク国際委員会ニュースレター」のほか、「国際酪農連盟年次報告」、「乳・乳製品関連コーデックス規格・ガイドライン・衛生規範及び IDF/ISO 合同分析法規格」、「国際会議出席報告書」、「世界の酪農情況」の定期刊行物を発行する予定です。

② 国際 Dairy レポート

出 版 物		内 容
1	国際 Dairy レポート第 4 号 (2021 年 4 月)	<p>食料価格の上昇をどう占うか・コロナ禍で FAO 指数 7 年ぶり高水準</p> <p>アイルランドの持続可能性プログラム「オリジン・グリーン」</p> <p>各国酪農場の持続可能性を調査 (IFCN Dairy Report 2020 より)</p> <p>DSF 2020-2025 戦略プランを策定</p> <p>IDF World Dairy Situation 2020 (世界の酪農情況 2020)</p> <p>乳牛の健康と温室効果ガス排出量に関するパイロット研究</p> <p>COLUMN: 映画とスイーツ (前編)</p> <p style="text-align: right;">(全文 24 頁)</p>
2	国際 Dairy レポート第 5 号 (2021 年 7 月)	<p>「食料システムの持続性」確保へ 9 月に国連サミット・資材や新技術の開発加速</p> <p>ラボバンク報告・第 1 四半期の世界情勢と中国市場</p> <p>世界の食品ロスと酪農乳業サプライチェーン</p> <p>各国酪農場の持続可能性を調査 (続編) (IFCN Dairy Report 2020 より)</p> <p>GDP ブリテンから</p> <p>IDF アニマルヘルスレポート第 14 号の紹介</p> <p>メタンの地球温暖化係数に関する総説論文</p> <p>COLUMN: 映画とスイーツ (後編)</p> <p style="text-align: right;">(全文 24 頁)</p>
3	国際 Dairy レポート特別号・IFCN Dairy Report 2020 より	<p>世界の乳価</p> <p>世界の石油・乳・飼料価格の推移 (1981～2019 年)</p> <p>比較分析に用いた酪農場の規模と生乳生産量</p>

	(2021年7月)	酪農経営の主な費用について 世界最大級の酪農場を経営する企業 サマリー/乳生産の状況と発展 (全文 28 頁)
--	-----------	--

③ Jミルクインテリジェンス

発 信 日		標 題
1	2021年4月7日	国連フードシステムサミット：酪農乳業のゲームチェンジング・ソリューション・国際酪農連盟ブログから
2	2021年4月14日	乳製品の価格上昇と低レベルの在庫量が景況感を改善・欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2021年3月会合報告より
3	2021年4月21日	貿易自由化の流れと新型コロナウイルスの影響・中国政府 RCEP を承認
4	2021年5月12日	LOOK, SMELL, TASTE, DON'T WASTE キャンペーン：食品を廃棄する前に、味と香りを再確認してください！
5	2021年5月26日	海外のアイスクリーム市場：米国市場で注目すべきトレンド
6	2021年6月2日	低炭素酪農に向けた世界の行動
7	2021年6月23日	世界の食料貿易の立ち直りは早い：FAO「食料アウトルック」、2021年の生乳生産量を1.6%増加、乳製品貿易量を2.6%増加と予測
8	2021年6月29日	EU 酪農乳業界の有機化目標達成への取り組みと課題：2030年、目標25%達成への道のりは険しい
9	2021年7月14日	主要輸出国の1～4月の生乳生産量は前年比0.7%増、国際貿易も堅調・欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2021年6月会合報告より
10	2021年7月21日	2030年までのSDGs達成のために農業・食料システムの転換が必要・FAOとOECDが「農業アウトルック2021-2030」を7月5日にリリース

④ Jミルクウェブサイト

Jミルクウェブサイトでは、以下のお知らせ（ニュース）のほか、「[世界の酪農・乳業統計](#)」などの国際情報を掲載しています。

情報発信		標 題 及 び 概 要
1	お知らせ (2021年3月31日)	<p>「国連フードシステムサミット」に向けて GDP と IDF が共同声明を発表しました</p> <p>世界の酪農乳業界を代表する組織であるグローバル・デーリー・プラットフォーム（GDP）と国際酪農連盟（IDF）は、今年9月に開催予定の「国連フードシステムサミット」に向けた共同声明（2021年3月付）を発表しました。</p>
2	お知らせ (2021年4月13日)	<p>持続可能性追求へ国際組織との連携強化「DSF」に加盟しました</p> <p>一般社団法人Jミルクは、海外との連携強化で酪農乳業の持続可能な発展のための取り組みを一層、効果的に進めるため、酪農乳業の国際組織「デーリー・サステナビリティ・フレームワーク（DSF）」に3月29日に加盟しました。</p>
3	お知らせ (2021年5月27日)	<p>国連フードシステムサミット 2021 に向けて～Jミルクコミットメント～</p> <p>日本においても GDP や IDF など国際的な酪農乳業組織と歩調を合わせ、国連フードシステムサミットにむけて、酪農乳業戦略ビジョンに基づくコミットメントを理事会において策定いたしましたのでお知らせいたします。</p>
4	お知らせ (2021年6月22日)	<p>2020年度 酪農乳業の国際比較研究会（オンライン開催）のご報告</p> <p>2021年3月26日にオンライン（zoom）開催した研究会の報告書を掲載しました。</p>
5	お知らせ (2021年7月8日)	<p>「IFCN アワード」を日本の2氏が受賞</p> <p>「国際酪農比較ネットワーク（International Farm Comparison Network、略称 IFCN）」は、研究や成果の普及などで功績のあったメンバーらを表彰する今年度の「IFCN デーリー・アワード（IFCN Dairy Award 2021）」で、名古屋大学大学院の竹下広宣准教授と Jミルク国際グループの折原淳次長をコミュニケーション部門の受賞者に選び、2氏は6月8、9日にオンラインで開かれた IFCN の年次総会（第22回）に合わせて紹介、表彰されました。</p>

6	お知らせ (2021年7月28日)	「国際 Dairy レポート 特別号」を掲載しました 国際酪農乳業情報「国際 Dairy レポート特別号(IFCN Dairy Report 2020 より)
7	お知らせ (2021年7月30日)	「温室効果ガス削減への取り組み加速を」GDP 専務理事ドナルド・ムーア氏のメッセージを発表しました 9月の国連食料システムサミット、11月の第26回気候変動枠組条約締約国会議(COP26)といった、農業分野での温室効果ガス(GHG)排出削減が大きなテーマとなる見込みの国連会議を前に、グローバル・デーリー・プラットフォーム(GDP)のドナルド・ムーア専務理事が日本の酪農乳業界に向けてメッセージを寄せた。

⑤ 報告書翻訳（仮訳）

発 信 日		標 題 及 び 概 要
1	2021年4月1日	GRA、GDP、DSF「乳牛の健康と温室効果ガス排出量に関するパイロット研究：チリ、ケニア、英国」 グローバル・リサーチ・アライアンス、グローバル・デーリー・プラットフォーム(GDP)およびデーリー・サステナビリティ・フレームワーク(DSF)が2020年に共同出版した報告書の翻訳(仮訳)です。

編 集 後 記

Jミルク国際委員会事務局長を拝命致しております荒川と申します。「国際委員会ニュースレター」初版出版に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

国際委員会は、従来のJミルク国際関連業務とJIDF（国際酪農連盟日本国内委員会）事業の統合に伴い、Jミルクの国際関連事業を運営する内部委員会として、新たに今年4月に設置したものです。

酪農乳業のグローバル化が進む中、Jミルクでは、わが国の酪農乳業の持続可能な発展に貢献するため、国際酪農乳業組織および国連の関連機関などの国際組織との連携を強化し、国際情報の一元的な収集と提供を進めることと致しました。これを具体的に推進するために国際委員会を設置致しました。

近年、気候変動問題への関心が高まり、また、世界的な人口増加などを背景に「持続可能なフードシステム」の構築が求められていることはご案内の通りです。私たち酪農乳業関係者にとっては、環境・栄養・経済・社会など多面的な分野に渡る課題に対して、責任ある役割を担い、持続可能性を強化していくことが、極めて重要であります。また各国酪農乳業組織および国連の関連機関などの国際組織による国際的な活動に積極的に関与し、世界の酪農乳業セクターの統一行動に対して貢献することも重要です。

こうした中で、国際的にはIDF（国際酪農連盟）、GDP（グローバル・デリー・プラットフォーム）、IFCN（国際酪農比較ネットワーク）、DSF（デリー・サステナビリティ・フレームワーク）などの組織が、相互に補完し合いながら共同で活動している状況を踏まえつつ、それらの国際酪農乳業組織の活動や提案、主要な国・地域の酪農情勢や優れた取り組みなどの情報を集約し、業界関係者に提供していくことが必要です。

国際委員会は、IDF、GDP、IFCN、DSFといった酪農乳業国際組織やCODEX（コーデックス）、ISO（国際標準化機構）、FAO（国連食糧農業機関）などの機関との連携を一元的に進めてまいります。これにより、国際情報の収集や提供を充実・強化していきたいと考えています。

国際委員会の具体的な活動の主体は、国際委員会の下に設置された各専門分科会、小分科会になりますが、それらの専門分科会、専門小分科会は、国際酪農乳業組織や国連の関係機関などの国際組織、さらには日本政府などとも連携して活動し、その成果を、国際委員会の国際広報分科会、事務局を介して国内外の関連組織や関係者に発信していきます。

その発信の一端を担うものが、今回よりお届け致します「国際委員会ニュースレター」であります。

皆さまには、「国際委員会ニュースレター」に対する忌憚のないご意見、ご指導をお寄せいただき、より良い「国際委員会ニュースレター」造りに事務局一同精進して参ります。引き続きのご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

(Jミルク国際委員会 事務局長 荒川宏行)

令和3年8月31日発行

発 行 J ミ ル ク 国 際 委 員 会

(J-milk International Committee)

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20
お茶ノ水ユニオンビル 5F 一般社団法人 J ミルク
TEL : 03-5577-7495 (国際グループ共通)
FAX : 03-5577-3236

J ミルク 国際委員会

J-milk International Committee

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

お茶ノ水ユニオンビル 5F 一般社団法人 J ミルク

TEL : 03-5577-7495 (国際グループ共通) FAX : 03-5577-3236